

環境レポート 2007

環境にいいこと、プラス。



ユニー株式会社

会社概要

本 社	〒492-8680 愛知県稲沢市天池五反田町1番地
設 立	1950年3月13日
資 本 金	101億2,925万円(2007年2月現在)
代 表 者	前村 哲路
事 業 内 容	衣・食・住・余暇にわたる総合小売業のチェーンストア
売 上 構 成	衣料品20%・食料品58%・住居関連品20%・その他2%(2007年2月実績)
決 算 期	2月20日(年1回)／東京・名古屋(各1部)の各市場に上場
店 舗 数	1都18県下の主要都市に158店舗(2007年5月現在)
従 業 員 数	27,575名
売 上 高	7,268億円(2007年2月期実績)
主 要 取 引 銀 行	三菱東京UFJ銀行、農林中央金庫、みずほコーポレート
H P ア ド レ ス	http://www.uny.co.jp
グループ連結売上高	1兆2,289億円(2007年2月現在)
主なグループ企業	(株)サークルKサンクス、(株)99(キューキュー)イチバ、(株)ユーストア、(株)さが美、(株)パレモ、(株)モリエ、(株)ラフォックス、(株)鈴丹、UNY〔HK〕CO.,LTD.、(株)ユーライフ、(株)UCS、(株)サン総合メンテナンス、(株)サンリフォーム、(株)ユニコム、(株)マイサポート、(株)ユニフード、東名クラウン開発(株)、(株)バイナス

事業所

※2007年6月現在

北陸本部

- 福井県
ジョイマートユニー丸岡店、アビタ武生店、アビタ敦賀店、アビタ福井店、アビタ福井大和田店、ユーホーム福井大和田店
- 石川県
ユニー七尾店、アビタ金沢店、アビタ松任店、ユーホーム松任店
- 富山県
ユニー小矢部店、アビタ魚津店、アビタ黒部店、アビタ礪波店、アビタ富山店、アビタ富山東店、アビタ食品館富山西町店
- 岐阜県
アビタ飛騨高山店

中京本部

- 名古屋市
ユニーアラタマ店、ユニー今池店、ユニー大曽根店、ユニー黒川店、ユニー中村店、ユニー守山店、アビタ新守山店、アビタ千代田橋店、アビタ東海通店、アビタ名古屋北店、アビタ名古屋南店、アビタ鳴海店、アビタ緑店、アビタ港店、ラフーズコア神野店、ラフーズコア正保店、ラフーズコア豊橋店、ラフーズコア滝ノ水店
- 愛知県
ユニー安城店、ユニー一宮店、ユニー岩倉店、ユニー乙川店、ユニー香久山店、ユニー国府店、ユニー新城店、ユニー武豊店、ユニー知立店、ユニー常滑店、ユニー豊明店、ユニー西尾駅東店、ユニー尾西店、ユニー碧南店、アビタ阿久比店、ユーホーム阿久比店、アビタ稲沢店、ユーホーム稲沢店、アビタ大口店、アビタ大府店、アビタ岡崎北店、アビタ刈谷店、アビタ蒲郡店、アビタ木曽川店、アビタ江南食品館、アビタ江南西店、アビタ高蔵寺店、アビタ小牧店、アビタ瀬戸店、アビタ知立店、アビタ東海荒尾店、アビタ桃花台店、アビタ豊明食品館、アビタ豊川店、アビタ豊田元町店、

アビタ長久手店、アビタ向山店、ユーホーム安城店、ユーホーム矢作店、ラフーズコア豊川店、ラフーズコア半田清城店、ラフーズコア三河安城店、アビタ安城南店

- 岐阜県
ジョイマートユニー恵那店、ジョイマートユニー各務原店、ユニー可児店、ユニー関店、ユニー多治見店、ユニー長良店、ユニー瑞浪店、アビタ各務原店、ユーホーム各務原店、アビタ北方店、アビタ岐阜店、アビタ中津川店、アビタ美濃加茂店
- 三重県
ジョイマートユニー阿倉川店、アビタ伊賀上野店、アビタ桑名店、アビタ鈴鹿店、アビタ名張店、アビタ松阪三雲店、ユーホーム松阪三雲店、アビタ四日市店
- 長野県
ジョイマートユニー飯田駅前店、アビタ飯田店、アビタ伊那店、アビタ岡谷店、アビタ高森店
- 奈良県
アビタ大和郡山店、ユーホーム大和郡山店

関東本部

- 新潟県
アビタ新潟亀田店、アビタ新潟西店、リバーサイド千秋(アビタ長岡店)
- 福島県
アビタ会津若松店
- 栃木県
アビタ足利店、アビタ宇都宮店
- 群馬県
ジョイマートユニー藤岡店、アビタ伊勢崎東店、けやきウォーク前橋(アビタ前橋店)、アビタ笠懸店、アビタ高崎店、アビタ館林店
- 茨城県
ユニー守谷店、アビタ石下店、アビタ佐原東店
- 埼玉県
ユニー大薬店、ユニー川本店、ユニー騎西店、アビタ岩槻店、アビタ吹上店、アビタ本庄店
- 東京都
アビタイースト21店
- 神奈川県
ユニーイセザキ店、ユニー大口店、ユニー金沢文庫店、ユニー弘明寺店、ユニー座間店、ユニー大雄山店、ユニー長後店、ユニー戸塚店、ユニー中山店、ユニー日吉店、アビタ長津田店
- 千葉県
アビタ市原店、アビタ木更津店、アビタ君津店

静岡本部

- 山梨県
アビタ石和店、アビタ田富店
- 静岡県
ユニー伊東店、ユニー磐田店、ユニー掛川店、ユニー駿東店、ユニー浜松泉町店、ユニー富士宮店、ユニー古原店、アビタ大仁店、アビタ静岡店、アビタ島田店、アビタ初生店、アビタ藤枝店、アビタ浜北店

環境理念

地球規模での環境破壊が深刻化している今日、
環境に優しい循環型社会実現のために、
ユニーは企業活動を通じて貢献します。

環境方針

ユニー株式会社は

1

総合小売業として環境負荷の少ない安全安心な商品及び
サービスの提供に努めます。

2

全従業員が環境問題に関心を持ち、
「環境活動」「環境教育」を通じて、
汚染の予防及び継続的な改善に努めます。

3

環境側面に関連して適用可能な環境に関連する
法的要求事項及び当社が同意する
その他の要求事項を順守し、お客様ならびに
一般市民・行政機関とパートナーシップをとり、
人と環境に優しい社会の実現に努めます。

4

環境目的・環境目標を設定し、限りある資源を大切にする
ために、省資源・省エネルギーに取り組み、
廃棄物の排出抑制、リサイクルを推進します。

5

この環境方針を実行・維持し、
当社で働く全従業員並びに関係する人々に周知し、
広く一般に開示します。

2007年3月21日

ユニー株式会社
代表取締役社長

前村哲路

会社概要・事業所	01
環境理念・環境方針	02
社長インタビュー	03
環境マネジメント	05
環境計画の概要	07
2006年度トピックス	09

+ 環境にイイこと、プラス

包装資材の削減	11
容器包装の見直し	13
廃棄物発生抑制の取り組み	15
食品廃棄物リサイクルシステム	17
環境負荷	19
廃棄物や容器包装を削減する取り組み	21
店舗での取り組み	23
子供環境学習	25
ビック・アップ・ストア(アビタ前橋店)	27
環境配慮商品	29

+ 社会・地域にイイこと、プラス

お客様の声	30
社会貢献・地域貢献	31

+ 従業員にイイこと、プラス

社員の能力開発・支援	35
環境学習	36
ユニーの食育について	37

環境レポート2007

対象範囲

ユニー株式会社
158店舗及び本社事務所
(各本部含む)

対象読者

ユニーの各店舗をご利用いただくお客様のほか、
店舗の近隣住民の方々・お取引先・従業員など、
当社に関わる全ての皆様が対象とします。

対象期間

2006年度
(2006年2月21日～2007年2月20日)

※一部上記対象期間以外の活動等を記載しています。



自然との調和を大切に

「未来の子供達に美しい自然を残したい」ユニーは
環境に優しい生活をお客様と一緒に進めていきます。

社長インタビュー



地球環境を考えることは、
今や企業の義務。
その意識を社員一人ひとりに
しっかりと浸透させていくことが
社会貢献への一番の近道です。

ユニー株式会社
代表取締役社長 前村哲路

深刻化する地球温暖化問題に対して、
レジ袋削減運動やバイオマスプラスチック容器の導入など
様々な環境活動に取り組んできたユニーは、企業として「何ができるか」「何をすべきか」を
今、改めて原点に立ち返り見つめ直しています。
小売業として携わる環境活動の意義について、また食育について、そして今後の展望について、
前村哲路代表取締役社長と百瀬則子環境部長のお二人に対談形式でお話を伺いました。

まずは問題を知り、 理解することから

百瀬 地球温暖化問題に対して、ユニーは企業として何をしていかなければならないとお考えですか？

前村 まずは、社員一人ひとりの意識改革ですね。地球温暖化の問題は、地球・人類の存続に関わる重要な問題。対処療法的なことではどうにもなりません。したがって、この問題の原理・原則を知り、理解する、という根本的なところから取り組んでいか



なければならぬと思っています。そうでないと、すべてが中途半端に終わってしまいますからね。

百瀬 そうですね。会社が取り組む環境対策を、社員たちが「会社が決めたことだから」と言ってやるのと、「何のためにやるのか」を考えて動くのとでは、意味合いも効果も断然違ってきますよね。

前村 私が、毎月の本部合同朝礼で、必ず環境問題の話をするのもそのためです。少しずつでもいい。会社のトップが、揺るぎない意志を持ってこの問題に向き合っていることをしっかりと伝えていきたい。会社を動かしていくのは、社員一人ひとりのマンパワーですからね。とにかく、この問題に対する社員たちの意識を高めていきたいんです。

百瀬 その思いは、確実に職場内に浸透してきていますよ。そして何かが変わりつつある。環境部としても、これまで以上に今、意欲に燃えています。

環境問題と営業活動の リンクが新たな可能性を生む

百瀬 さて、これまでも私たちは、レジ袋

削減運動やバイオマスプラスチック容器の導入をはじめ、店舗の照明・空調・物流システムの見直しなど、内外から環境への取り組みを行ってきました。そして、さらに今後、私たちが社会へ貢献していくために、どのような具体的な活動を行っていくべきでしょうか？

前村 新しいことに着手するには何でもコストがかかります。だからと言って断念していたら何も変わらない。では、どうしたらいいか？環境問題を個別の問題として、切り離して考えるのではなく、営業活動の一環として考えていくことが必要なんだと思います。例えば、省エネ・省資源、環境汚染防止、リサイクルなどを考えた自社商品開発もそのひとつ。お客様がそういった自社商品をセレクトできる売り場環境があることが、第一歩なんです。環境活動を行っている企業だということを世間にアピールする、支持されるお客様の層が増える、売上が伸びる、新たな環境対策の資金となる、そして、さらなる活動の場が広がる…、簡単に言うならば、そういうことです。

百瀬 企業としては、収益を上げなければいけないのは当然のことですし、そのひとつの要素として環境問題を上手くアピ

ールしていくことが、相乗効果を生むということですね。

前村 その通り。双方がリンクしていることで、よりお客様の声も近くなりますからね。そういった声をどんどん吸収して、新しい商品開発や企業活動につなげていきたいと思っています。そうすれば、私たちが“やれること”“やらなければならないこと”の幅が、自然と広がってくることでしょ

地域の声を聞き、 地域とともに成長する

百瀬 東海地区は、愛知万博の開催以降、地域のみなさんが環境に深い関心を持っている地区であり、ユニーとしても、地域の方々と一緒に様々な環境活動を行っています。特に、食育や子供たちへの環境教育について積極的に取り組み、それらにまつわるイベントも、年間50～60回行っています。

前村 それらについては、もっともっと充実していくべきだと考えています。なぜ今、食育が企業まで巻き込んだ行政のテーマになっているのか？それはつまり、伝達の消滅です。昔は自然と受け継がれてきた

ことも、時代が変わり、生活形態が変わったことにより、家庭で語られなくなった。それを世間に、特に子供達に伝えていくことは、地域のみなさんの社交場である、私たちの使命だと考えています。小売業としての社会的な存在意義や価値を、こういったところで発揮するべきなんです。食育や環境活動を、もっと企業活動そのものとして取り組み、お客様にメッセージとして伝えていく、そしてしっかりと企業カラーを出していく。それが、大きな力を生み出していくのではないのでしょうか。

百瀬 そうですね。私たちは今まで活動はしていても、それをお客様に上手く伝えきれていなかったと思います。イベントに参加されたお客様から、「ユニーさんってそんなこともしていたの？」という声をよく耳にしますからね。その辺りをもっと積極的にアピールしていかないと、お客様も何を判断材料に企業を評価すればいいか迷ってしまいますからね。それは逆に、お客様に対して失礼な行為なのかもしれませんね。

前村 そういった意味では、私たちは少し地域に対してコミュニケーションが不足していたかもしれませんね。地域密着のドミ



ナント経営の利を生かして、もっとお客様の身近な存在になっていくべきだと思います。“地域に根ざし、地域から情報を得、地域とともに成長していく”、そんな店づくりを私たちは目指していきたい。

百瀬 街が、住民が誇りに思える店…ですね？

前村 そんな店づくり、地域づくりを、従業員一丸となってがんばっていきましょう。

百瀬 はい！今日はありがとうございました！

環境マネジメント

ユニーの環境マネジメントシステム

「未来の子供達に美しい自然を残したい」と願うユニーでは、すべての事業所と店舗で環境保全活動を実施しています。

いま、世界中で異常気象が発生し、日本でも夏の気温の上昇や集中豪雨などが問題にされています。

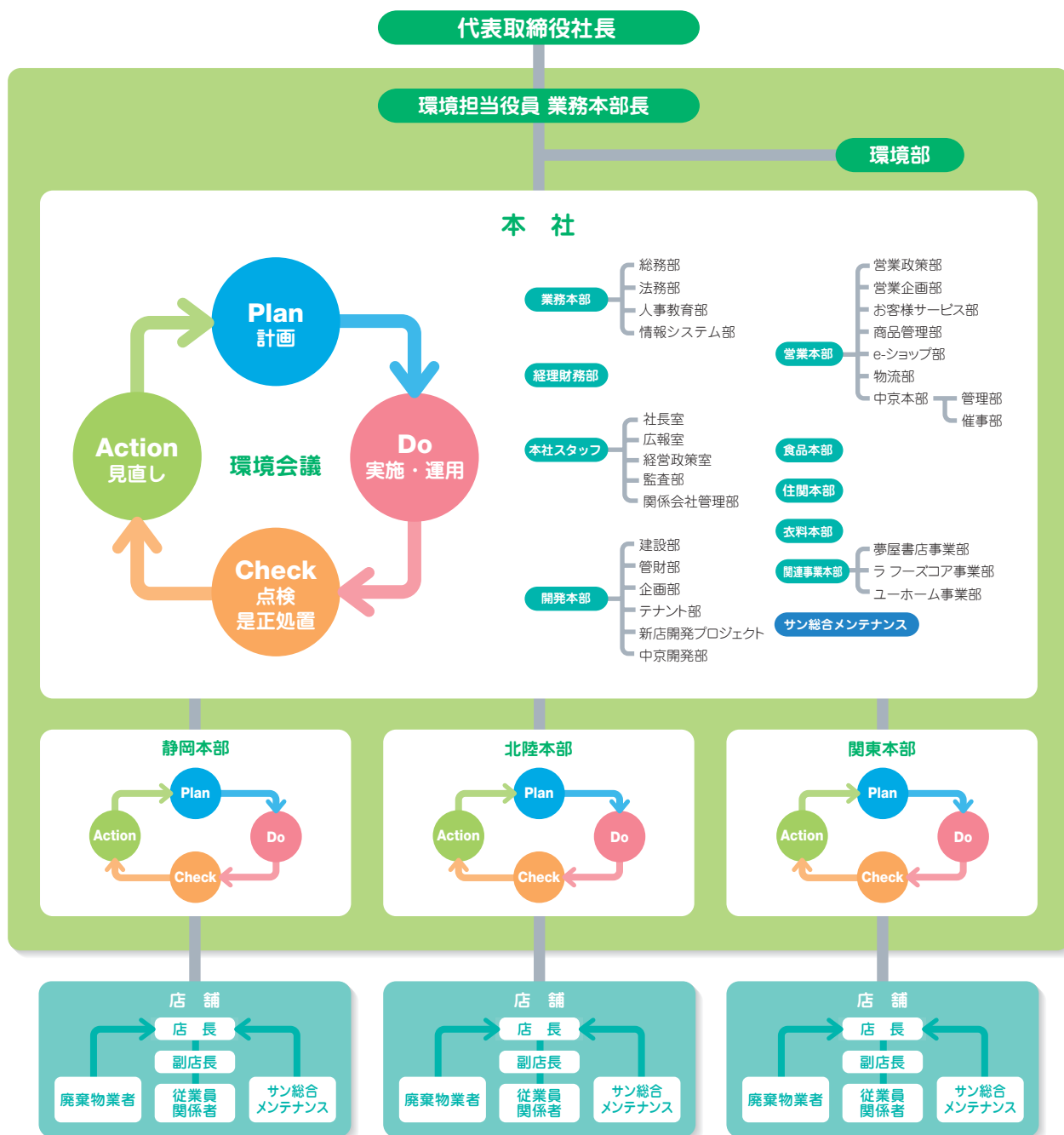
これらは地球温暖化が原因であり、その大きな要因がCO₂など温室効果ガスだと言われています。

ユニーの環境マネジメントでは、CO₂を削減し地球温暖化を防止するために、省エネ省資源・廃棄物削減・コピー用紙使用削減などを目的とし、実績はCO₂に換算して目標管理をしています。毎日の環境活動がCO₂削減につながっています。

組織図

🌱 環境マネジメント組織 (EMS組織)

環境保全活動に対する取り組みを、Plan (計画・目的目標の立案)、Do (実行)、Check (検証)、Action (見直し、改善) のスパイラルで、環境方針を実現するために、環境マネジメントシステムを構築しています。



環境マネジメントシステム (ISO14001) への取り組み

2005年度に、北陸本部・関東本部が認証取得をし、2006年2月に本社事務所の範囲拡大することにより、ユニー(株)の全本部機能がISO14001のサイトに登録されました。環境マネジメントシステムISO14001導入の目的は、規格にある「環境汚染の予防」「継続的な改善」です。これらを具体的な環境保全活動の中で実践しています。



緊急事態への対応

・消防訓練を実施



消防訓練

継続的な改善

- ・省エネ活動…省電力
 - クールビズ
 - 節電—空調管理
 - 消灯
- ・省資源…コピー用紙の使用削減
- ・廃棄物削減
- ・本社周辺の清掃活動



周辺清掃活動

ISO14001推進のための社員教育

環境方針、環境マネジメントシステムの目的目標や仕組みをよく理解してもらうために、サイトの全従業員と関係する人達に教育を行っています。また、環境マネジメントシステムを維持管理していくための内部監査を行なう「内部監査員」を養成する研修を定期的に開催しています。



各本部認証取得

・本社 ・関東本部 ・静岡本部 ・北陸本部



2008

2007年
本社事務所
登録を更新

2007

2006年2月24日
本社事務所範囲拡大

2006

2005年12月1日
関東本部認証取得

2005年9月14日
北陸本部認証取得

2005年7月4日
関東本部キックオフ

2005年3月28日
北陸本部キックオフ

2005

2004年12月9日
静岡本部認証取得

2004年7月26日
静岡本部キックオフ

2004年1月14日
本社事務所認証取得

2004

2003年9月7日
本社事務所キックオフ

2003年3月17日
社内環境会議でISO14001の
勉強会を開始

2003

2002

2001年6月20日
「環境レポート2001」を発行

2001年2月21日
本社業務本部に環境部を設置

2001

環境計画の概要

環境計画の目標と実績

環境方針に基づき、環境保全活動をおこなっていくために、具体的な目的および目標を定めて取り組んでいます。目標を達成するために、環境会議で検討した計画と対応策を各部署・各店舗で実践し、その結果を踏まえながら次の目的・目標を立案します。こうした活動を通じ、継続的な改善を進めています。

環境計画

環境方針	取り組み項目		2006年目標							
環境マネジメントシステムの構築	●ISO14001の構築への取り組み		◆環境目的目標数値をCO2で評価する							
環境負荷の低減 省エネ省資源	●省エネへの取り組み		◆省エネ法に基づき、店舗に省エネ推進委員会を設置し、エネルギー管理員を中心に、省エネ計画を作成する							
			◆「ブラックイルミネーション」に全店参加する							
			◆電気使用量削減 0.5%							
	●物流システムの見直し		◆低温一括物流への取組開始							
			◆一括物流拡大による納品車の削減への取り組み							
	●包装資材の使用削減		◆通い箱の使用拡大により、ダンボールの削減をする(20%削減)							
環境負荷の低減 省エネ省資源			<table><tr><td>レジ袋</td><td>枚数で10%削減</td></tr><tr><td>包装紙</td><td>重量で5%削減</td></tr><tr><td>紙 袋</td><td>重量で2%削減</td></tr></table>		レジ袋	枚数で10%削減	包装紙	重量で5%削減	紙 袋	重量で2%削減
	レジ袋	枚数で10%削減								
	包装紙	重量で5%削減								
	紙 袋	重量で2%削減								
	・お買い物袋スタンプカード回収枚数		◆回収枚数10%向上(レジ袋2,180万枚削減)							
	・レジ袋辞退率の向上		◆辞退率16%							
廃棄物の適正処理 とリサイクル推進	●廃棄物排出削減		◆廃棄物排出総量の削減に努める(5%削減)							
	●廃棄物の計量		◆全店計量器に設置し、リサイクルを目的にした分別を徹底する							
	●リサイクル推進	食品廃棄物	◆地域循環の取り組みを拡大する							
		廃プラスチック	◆リサイクル率 40%							
	●店舗での容器回収の推進		◆回収店舗拡大							
		◆回収量の拡大と、取扱い種類を増やす								
グリーン購入			◆OA紙のグリーン購入率 90.0%							
環境情報の開示 と環境保全活動	●環境情報の開示		◆環境レポート2006発行							
	●環境保全活動		◆ホームページで情報発信							
	●環境学習会		◆店舗において、環境ポスターの掲示							
環境汚染防止			◆毎日の清掃活動は全店で実施							
			◆地域の環境保全活動に参加する							
			◆開催店舗拡大 ◆20店舗40回開催							
環境汚染防止			◆店舗見学及び環境学習用ワークブック作成(小学生用)							
			◆白川郷で「夏休み自然探検隊」を開催							

2006年結果	評価	2007年目標									
◆環境目的目標数値のうち、「省エネルギー・省資源」 (電気使用量・水道水使用量)をCO2換算し、評価した	△	◆店舗への環境マネジメントシステム拡大を図る ◆セルフチェックリストによる、廃棄物、エネルギー使用量、 包装資材、排水管理、リサイクルなどの監査の実施 環境配慮商品の開発 ◆PB商品の環境配慮商品を開発する									
◆改正省エネ法に基づき、第一種・第二種指定事業所(店舗)に、 それぞれエネルギー管理士・管理者の資格取得者を置き、 各事業所(店舗)に省エネ推進委員会を設置し、 省エネ計画を立て、省エネ活動を実施している ◆「ブラックイルミネーション」に全店参加した	○	◆エネルギー使用量削減により、CO2発生抑制、前年比2% ◆省エネ運動の推進									
◆電気使用量 98.39% ◆ガス使用量 171.26% ◆石油使用量 50.16% } ◆電気使用全量 △1.61%	○	◆電気使用量削減 1%(前年比)									
◆低温一括物流の実施 ◆一括物流による納品車の削減の実施 ◆通い箱によるダンボールの削減 20%	○ —	◆走行距離、燃料消費量、CO2排出の抑制 ◆リサイクルハンガー、通い箱の推進 ◆環境負荷軽減車両の導入									
<table><tr><td>レジ袋</td><td>2,075t</td><td>(前年比94.5%)</td></tr><tr><td>包装紙</td><td>209t</td><td>(前年比87.8%)</td></tr><tr><td>紙 袋</td><td>392t</td><td>(前年比40%)</td></tr></table>	レジ袋	2,075t	(前年比94.5%)	包装紙	209t	(前年比87.8%)	紙 袋	392t	(前年比40%)	○	◆包装資材の見直し(素材・サイズなど) ◆トレイ・ラップ・レジ袋・包装紙などの使用削減6%
レジ袋	2,075t	(前年比94.5%)									
包装紙	209t	(前年比87.8%)									
紙 袋	392t	(前年比40%)									
◆回収枚数 288.0%(2,913万枚削減)	○	◆レジ袋有料化実験開始									
◆辞退率 16%	○	◆レジ袋辞退率 20%									
◆2.37%削減	×	◆廃棄物排出総量 5%削減 ◆ユニー(株)全店での計量実施									
◆113店舗に設置済み(食品取扱店舗147店舗中 76.9%)	△	◆廃棄物適正処理の確立、処理料金の見直し(計量実績による)									
◆地域循環の推進2店舗で新たに開始 ◆リサイクル率 30%	△	◆改正食品リサイクル法順守 ◆リサイクル率 40%									
◆中京本部25店舗でRPFにリサイクル実施	○	◆廃プラスチックのリサイクル推進									
◆牛乳パック 419.7t 111.2% トレイ 203.4t 110.2% ◆アルミ缶 347.4t 116.7% ペットボトル 860.6t 127.0%	○	◆リサイクルボックスの回収拡大 ◆回収品の種類拡大(バイオマスプラスチックなど)									
◆OA紙のグリーン購入率 94.7%	○	◆グリーン購入品種拡大を図る									
◆環境レポート2006発行 ◆ホームページで情報発信 ◆店舗において、環境ポスターの掲示	○	◆環境レポート2007発行 ◆ホームページで情報発信 ◆店舗において、環境ポスターの掲示									
◆毎日の清掃活動は全店で実施 ◆各地域の環境展に出展	○	◆地域環境活動への参加(NPO・行政との協働) ◆地球温暖化防止活動の実施									
◆開催店舗数 18店舗32回開催 ◆店舗見学及び環境学習用ワークブック作成(小学生用) ◆白川郷で「夏休み自然探検隊」を開催	△	環境教育・啓蒙活動の拡大 ◆従業員教育 ◆子供のための環境教育の充実 ◆お客様への啓蒙活動 ◆お取引様への啓蒙活動									
		◆排水水質管理システムの構築 ◆有害物質管理 PCB・フロンガス・アスベスト・その他									



2006年度トピックス

2006年度のユニー環境保全活動の主な取り組み

2006年、京都議定書が発効され、地球温暖化防止の声が高まった1年でした。
ユニーでは環境保全に関してさまざまな取り組みをしてきました。
その中からいくつかを取り上げました。

「発展途上国の子供達に文房具を送ろう!プロジェクト」の実施

2006年8月から10月の期間に、愛・地球博ボランティアセンターと協力し、お客様から古本を寄付していただき、その収益金で文房具を購入し、ラオス・カンボジアの小学校に寄付をしました。アピタ長久手店、アピタ江南西店、アピタ阿久比店、アピタ名古屋南店、アピタ知立店、アピタ安城南店の6店舗で開催。当日は、万博キャラクターのモリゾー・キッコロの撮影会も実施し、たくさんのお客様に参加していただきました。



小池環境大臣(当時)がアピタ新守山店に来店

2006年9月5日、小池環境大臣(当時)が近隣での行事の途中にアピタ新守山店に立ち寄られ、環境活動等の視察をされました。環境部長が容器包装のリサイクルやノーレジ袋キャンペーン、バイオマスプラスチック容器の使用状況や食育への取り組みについての説明を行いました。

また食品リサイクルへの取り組みについて「生ゴミ乾燥機」などをご覧になり、いくつかの課題について質問・助言をいただきました。



人にやさしい街づくり賞を受賞

愛知県が実施している「人にやさしい街づくり賞」を、アピタ向山店が受賞しました。これは、高齢者や障害者、妊産婦、子供などすべての人の安心な暮らしや気軽に外出できるための取り組みを行い、取り組みの中で創り出される「もの」、「活動」に対して顕彰するものです。当店は既存の設備を改修した車椅子用駐車場の設置や障害者雇用を考えた活動などが大きく評価されました。今後もすべての店舗において、地域に密着しながら店舗の充実を図っていきたいと考えています。



食品リサイクル法「再生利用事業計画」全国初の認定

2007年1月26日、ユニーの店舗から排出する野菜クズや魚のアラなどを堆肥にして野菜を育て、店頭で販売する食品リサイクル事業が、国の再生利用事業計画認定制度の第1号となりました。2001年5月にこの認定制度が成立してから初めての認定です。この食品リサイクルは、2003年から愛知県経済農業協同組合連合会、一般廃棄物処理業のヒラテ産業と協力して取り組んできたものです。愛知県内のアピタ刈谷店とユニー知立店から排出した食品残渣から年間約120tの堆肥を作り、この堆肥でJAあいち海部の契約農家が大豆、にんじん、トマトなど38種類の野菜を年間約182t生産しています。これらの野菜はアピタ稲沢店など3店舗で、生産者の顔写真付きで販売され、お客様に大変好評を得ています。



関連記事→P18参照



「不都合な真実」映画鑑賞による環境教育

2007年3月2日「不都合な真実」(アル ゴア作)の鑑賞と名古屋大学の森川教授による講義を中京本部店長部長が受講しました。地球温暖化について、今我々は何をすべきか。もし、何もしなかったら、地球はどうなるのか。この映画によるゴアのメッセージと、身近な例を示しながらの森川教授の講義により、ユニーの進むべき環境保全活動について、それぞれが取り組む課題について考える



ことができました。また、この映画鑑賞の参加者から寄せられたチャリティー募金225,000円を、エコマネーセンター(名古屋市)に寄付しました。



環境関連事業者連絡会を開催

2007年5月18日、一般廃棄物運搬事業者や産業廃棄物処理事業者などの環境関連事業者の取引先を集め、連絡会を開催しました。廃棄物に関する法令順守やリサイクル推進のために、ユニーと一緒に取り組んでいただくよう行政や専門家の講義や、今後の取組課題などについての質疑応答が実施されました。



レジ袋有料化へ(レジ袋無料配布中止)

2007年6月11日より、横浜市緑区のユニー中山店でレジ袋有料化を開始しました。「ノーレジ袋キャンペーン」などでレジ袋の使用削減に努めてきましたが、これはさらにレジ袋削減を促進するためにお客様に協力していただき、地元緑区役所との協働で実施したものです。今後、各地で市民の皆様・自治体と協力し、進めていく計画です。



関連記事→P12参照

石川県と「レジ袋削減協定」を締結

2007年6月27日、石川県県知事、社団法人いしかわ環境パートナーシップ県民会議とユニー株式会社北陸本部の三者が「マイバッグ等の持参促進及びレジ袋削減に関する協定」を締結し、それぞれの役割において、地球温暖化防止と循環型社会構築に向けた環境配慮活動を協働で取り組むことを誓いました。



アピタ長久手店内「長久手Nピア」にエコマネーセンター オープン

2007年7月19日、愛知県長久手町の行政サービスセンター「長久手Nピア」(アピタ長久手店内)に、EXPOエコマネーセンターがオープンしました。アピタ・ユニー各店の「ノーレジ袋スタンプカード」やその他指定の環境学習やボランティア活動、公共交通機関利用などでポイントがつき、貯まったポイントでエコ商品との交換や地域の環境活動への寄付ができます。



包装資材の削減

容器包装をなるべく使わない販売への取り組み（発生抑制）

容器包装リサイクル法が改正され、今後さらに容器包装の使用削減、リサイクルの推進などが求められてきます。

家庭から排出されるゴミの約60%が容器包装だといわれていますが、CO₂の発生など

環境負荷の大きな廃棄物の排出抑制のために、ユニーはお客様と一緒に「レジ袋を使わない買い物」を推進しています。

また、レジ袋の素材「限りある化石資源」である石油の節約にもなります。

ノーレジ袋キャンペーン

ユニーでは1989年より「お買い物袋持参運動」を進めてきましたが、買い物袋持参率が5%前後で停滞していました。そこで、より多くのお客様に知っていただき参加していただくために、2006年より「ノーレジ袋キャンペーン」を展開しました。

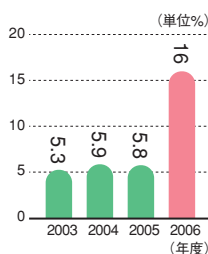
店舗での掲示物や館内放送でのPR、環境月間や毎月5日の「ノーレジ袋の日」、毎週火曜日には、Wスタンプデーの実施などにより、お買い物袋を持参するお客様が増えてきました。

エコバスケットのご利用開始

「バスケットでお買い物をすれば、レジ袋が要らないし、マイバッグに詰め替えなくても良くて、便利でスピーディー。」というお客様からの声にお応えして、2006年9月からエコバスケットのご利用を開始しました。ご不要になったエコバスケットはお引取りします。



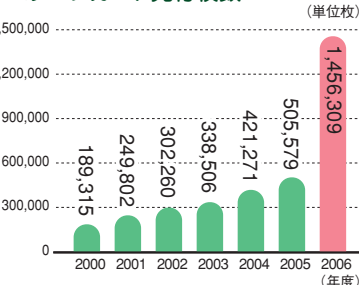
ユニー全社のレジ袋辞退率の推移



ユニー全社のレジ袋使用枚数

年度	使用枚数 (単位千枚)
2000年度	357,345
2001年度	325,470
2002年度	327,701
2003年度	320,744
2004年度	326,067
2005年度	340,611
2006年度	333,630

スタンプカード発行枚数の推移



お買物レジ袋削減への取り組み

レジ袋のサイズや配布の見直しを実施

お買い物袋持参運動から「ノーレジ袋キャンペーン」の展開、お客様の参加が増加すると共に、レジ袋の使用枚数が削減されてきました。こうした環境保全活動をたくさんのお客様が実施していただくことで、使い終わったレジ袋の削減や、原料や製造に使用する石油の節約につながります。

レジ袋使用量・重量の推移 (全サイズのレジ袋の重量)

年度	取り組み	重量 (t)
2000年度	1枚当たり重量の軽量化を図るため薄くて強い袋に改善	2,508t
2001年度	レジ袋各サイズの容量の見直しを検討	2,280t
2002年度	新サイズに切り替え使用枚数削減	2,403t
2003年度	お客様に適正枚数配布の教育実施	2,329t
2004年度	従業員全員にマイバッグ配布	2,242t
2005年度	愛・地球博エコマネーに参加	2,195t
2006年度	ノーレジ袋キャンペーン開始	2,075t

※環境レポート2006年度版は食品レジ使用分のみ

容器包装リサイクル法への対応

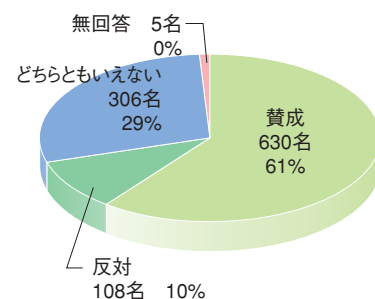
包装資材の使用削減をお客様と一緒に進めていますが、容器包装リサイクル委託料は年々増加しています。今後も、できるかぎり包装資材を使わないお買い物を推進し、使い終わった容器包装の回収リサイクルに努めます。

年度	金額 (万円)
2000年度	7,100万円
2001年度	1億2,100万円
2002年度	1億1,800万円
2003年度	1億4,900万円
2004年度	2億135万円
2005年度	2億5,487万円
2006年度	2億7,322万円
2007年度	2億9,729万円

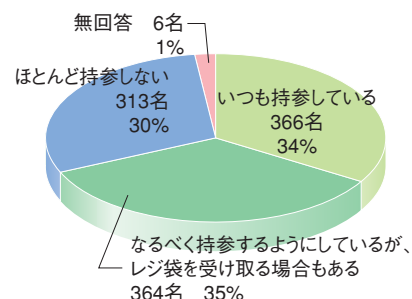
レジ袋削減に関するお客様のアンケート

2007年4月5日に各地区から25店舗を選び、1,049名のお客様に店内でアンケート調査を実施しました。お客様の来店交通手段や、自宅からもしくは通勤や外出先からの来店などの条件により、マイバッグの持参率に差があることなど、今後のレジ袋削減への対応へのヒントになりました。また、レジ袋有料化に関しては、反対が10%ありましたが、賛成が61%・どちらともいえないが29%と、今後さらに理解が高まると推測されます。

質問 地球保全のため、レジ袋を有料にして、お客様に買い物袋持参を呼びかける店舗が増えそうですが、あなたはレジ袋有料化についてどう思いますか？



質問 あなたはお買い物の際、ご自分の買い物袋を持参されていますか？



レジ袋使用削減のために（無料配布中止）

「ノーレジ袋キャンペーン」をさらに進めるために、2007年6月11日より横浜市緑区のユニー中山店でレジ袋の無料配布中止（有料化）の実験に取り組みました。9店舗ある横浜市

内のユニーの中で、レジ袋辞退率が一番高いユニー中山店では、お客様の環境問題へのご理解を得て、現在も進行中です。

マイバッグやエコバスケットを持参されていないお客様には、通常のレジ袋よりサイズを大きくし、厚さを増して丈夫にした「お買物袋」をご用意しました。何度も使っていただけます。



ヨコハマは
G30マスコット
へら星人ミーオ
です。



／ お客様と一緒にこれからも従業員一同、がんばります。／



名古屋市3R協議会

名古屋市では2003年より市民・学識経験者・名古屋市・容器包装関連事業者による「容器包装削減協議会」を開催し、市内共通ポイント「エコクーびょん」を作成したり、マイバッグ普及活動などを展開してきました。更にこの運動を進めるために「レジ袋有料化」を実施する方向で、シンポジウムを開催し、ユニーはパネラーを務めました。



容器包装の見直し

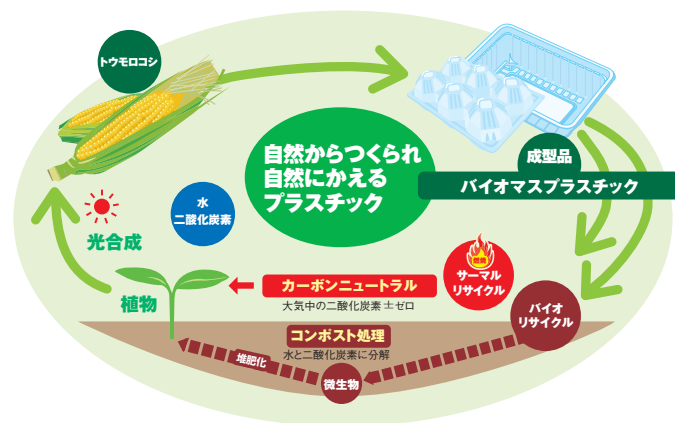
環境にやさしい資材を使った容器包装への取り組み

石油資源を使うことの多い容器に代えて、植物資源などを使った環境にやさしい容器を導入しました。農林水産省が進める「バイオマス利活用フロンティア推進事業」にも取り上げられたバイオマスプラスチック製容器包装の推進により、省資源と廃棄物の削減及び二酸化炭素の発生抑制により、地球温暖化防止に貢献しています。

バイオマスプラスチックとは

従来の石油などで作られるプラスチックと異なり、植物を原料としたプラスチックのことです。地球に存在する石油に限界があることは周知のとおりですが、繰り返し栽培することによりサステナビリティ（継続的な）に生み出されるバイオマスプラスチックは、生分解性プラスチックでもあり、水と二酸化炭素に自然に分解します。この水と二酸化炭素は、原料の植物が光合成により生成したでんぷんが、また自然に戻ることで地球の二酸化炭素を増加させることにはなりません。（カーボンニュートラル）

ただし、今回ユニーが導入したバイオマスプラスチック（ポリ乳酸）はトウモロコシを原料にしたもので、従来使用していたPETに比べ原料費が高いことと、若干熱に弱いことがこれから克服しなければならぬ課題です。



「バイオマスプラスチック」の特長

1

石油に代表される化石燃料の節約になる

トウモロコシのような植物生まれの原料を使うことで、限りある化石燃料が節約できます。

2

二酸化炭素を増やさない

バイオマスプラスチックを燃やしても、もともと含んでいた二酸化炭素が自然に還るだけで、地球上の二酸化炭素の増加にはつながりません（カーボンニュートラル）。

3

微生物の力で水と二酸化炭素に分解

生ゴミと一緒に捨てても土の中の微生物によって水と二酸化炭素に分解され、廃棄物になりません。



バイオマスマーク

動植物を原料としたプラスチック
使用後は水と二酸化炭素に分解され、
自然に戻ります。



フルーツ用プラスチックケース



鶏卵用パック



バイオマスプラスチックケースはレジにて回収



「バイオマス利活用フロンティア推進事業」の実施

2006年5月に、ユニーが進めるバイオマスプラスチック製容器使用への取り組みに対し、農林水産省から「バイオマス利活用フロンティア推進事業」として認定されました。この事業はバイオマスプラスチックを広く一般に知ってもらい、利用を促進する目的でさらなる普及に努

めるものです。今年度の課題は「バイオマスプラスチック製容器の物流、商品パッケージとしての使用状況」についてであり、従来品（PET樹脂）との比較をし、今後の利活用の拡大を学識経験者・消費者・物流関係者・商品担当と「実証委員会」を開催し、検討しました。



バイオマスプラスチックの普及活動

各地の環境展でアンケートを実施

バイオマスプラスチックの普及事業として、各地で参加している環境展で、パネルの展示や「認知についてのアンケート」を実施しました。バイオマスプラスチックについて既知っている方もいれば、この展示やアンケートで初めて知った方もいて、たくさんの消費者の皆様にご認知いただきました。

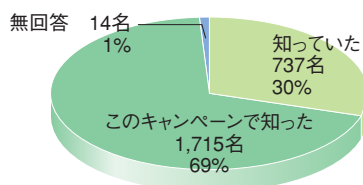


アンケートの結果

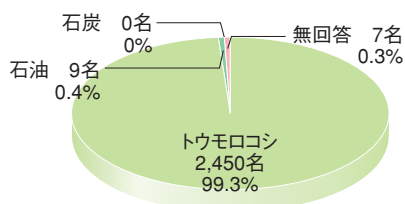
2007年1月2月に、中京地区（愛知・三重・岐阜・長野・奈良）のお客様を対象に実施した、はがきの応募によるアンケート調査の結果です。

※このアンケートは、卵きさらし10個入り・カットフルーツを対象にしたものです。

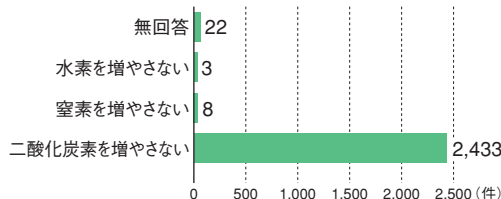
質問 植物を原料として作られる バイオマス容器を知っていましたか？



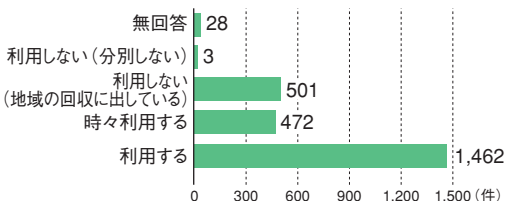
質問 バイオマスプラスチックは 何でできていますか？



質問 バイオマスプラスチックは どうして環境に良いのでしょうか？



質問 ご家庭で出たリサイクルできるゴミ (牛乳パック・トレイ・アルミ缶・スチール缶・ビン・ペットボトル)は リサイクルBOXを利用しますか？



お客様からのご意見・ご感想

- ユニーのリサイクルBOXは、ビンやアルミ缶までであるので大変便利で、買い物ついでに毎回持っています。
- アピタに買い物に行くときは、必ずといっていいほど、マイバッグを持っています。スタンプカードにスタンプを押してもらうのがとても楽しみです。
- 地球を守るため、二酸化炭素を増やさない運動は、とても良いことだと思います。未来の子供達に美しい地球を渡したいです。

(他多数)

三県一市グリーンキャンペーン

2002年より愛知県・三重県・岐阜県・名古屋市と共催で、「環境にやさしい買い物」を推進するキャンペーンに参加しています。2006年度は

このキャンペーンの中で、「バイオマスプラスチック製容器」使用商品を対象に、消費の拡大とバイオマスプラスチックの普及のためのキャンペーンを実施しました。



堆肥化実証試験

「バイオマスプラスチックは土に戻る」ということを実証試験で検証しました。ユニーが実施している食品リサイクルによる食品残渣の堆肥に、バイオプラスチック製容器を入れ、どのような結果になるかを調べたものです。愛知県農業試験場に協力していただき、バイオマスプラスチック製容器が分解し、堆肥の中でどのように変化をするかどうか、またその堆肥で育成した植物に阻害がないかどうかを実験しました。結果は、堆肥が発酵する温度と水分で分解し、その後微生物により水と二酸化炭素になるという経過が確認できました。2007年度はさらに、この堆肥が有害でなく作物栽培に有効であるかどうかを調べていきます。

廃棄物発生抑制の取り組み

使った容器包装を廃棄物にしない取り組み（リサイクル推進）

お客様が商品と一緒に持ち帰った容器包装を回収し、再生資源としてリサイクルする活動に取り組んでいます。

全店にリサイクルボックスを設置し、容器包装資材をお客様から回収しています。

捨ててしまえば廃棄物になるトレイや牛乳パックなどを再び資源として活用できる「リサイクルの環」をつくりあげています。

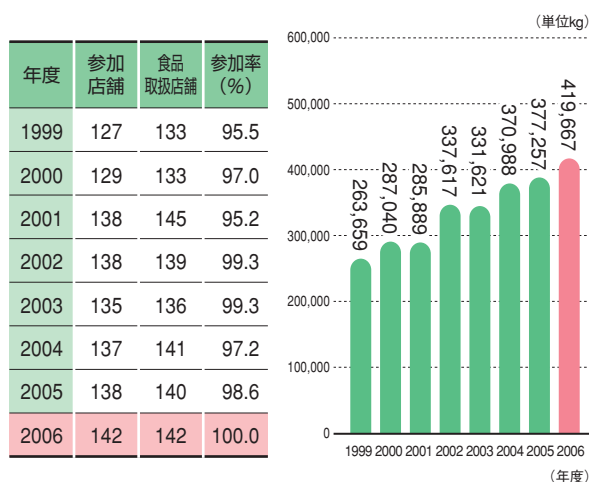
容器の店頭回収

🍎 リサイクルボックスによる容器回収の実施

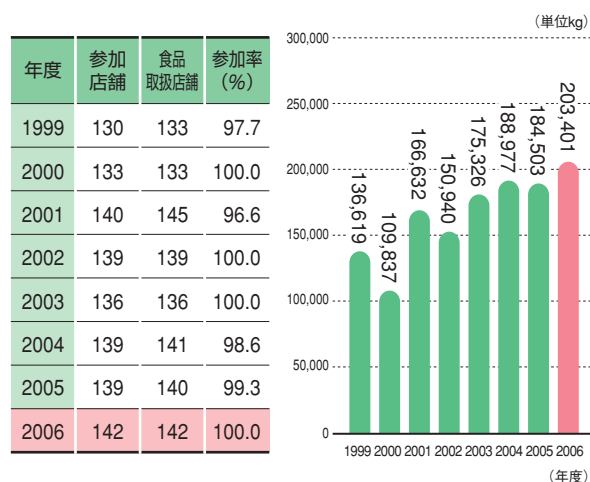
食品取扱店舗の店頭でリサイクルボックスを設置し、家庭でゴミになるアルミ缶や食品トレイなど容器を回収し、リサイクルをしています。また、各店の回収実績やリサイクルの流れ、再生製品などをわかりやすく説明したポスターを掲示し、お客様にリサイクルの仕組みをご理解いただくよう努めています。2007年の容器包装リサイクル法改正で、容器の自主回収や再生利用実績が委託料に反映されるようになりました。ユニーでは、今後容器包装の使用抑制を図るとともに、家庭ではゴミになってしまう容器包装をできるかぎり回収し、再生利用していきます。



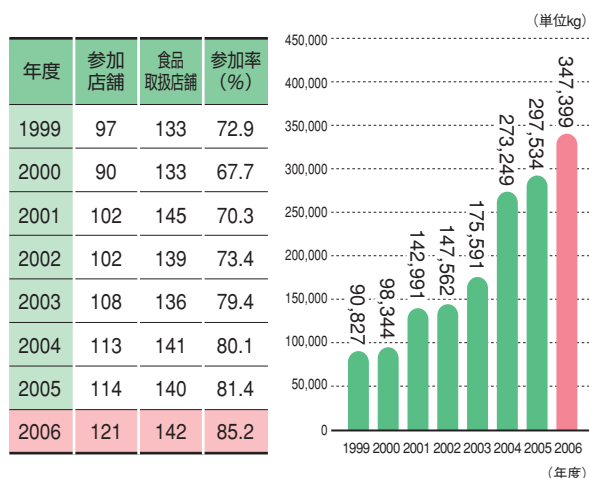
牛乳パックリサイクル実績



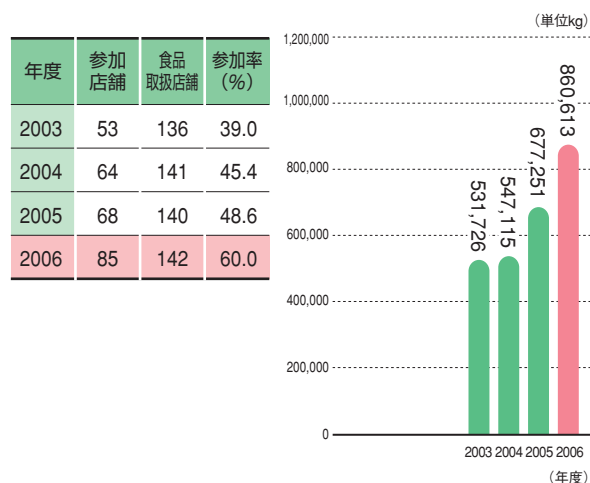
発泡スチロールトレイリサイクル実績



アルミ缶リサイクル実績



ペットボトルリサイクル実績



回収した容器のリサイクル

🍏 リサイクルセンターに集約

中京本部の各店舗で回収した容器（リサイクル資源）は、弥富物流センター内の「リサイクルセンター」に集められ、リサイクル資源毎に計量し、効率的に搬送しやすいように圧縮し、それぞれのリサイクル工場に搬出します。各店からのリサイクル資源の集約には、店舗への物流便の帰便を使っているため、エネルギーや排気ガスの削減になります。



食品廃棄物リサイクルシステム

食品廃棄物リサイクル

食品の売れ残りや食べ残しのほか、食品の加工や調理過程でも大量の食品廃棄物が発生します。ユニーでは発生の抑制と減量化により最終的に処分される量を削減するとともに、自社でのリサイクルや地域との連携などを通じ、食品廃棄物の循環型リサイクルを実施しています。

食品リサイクル法

2001年に施行された食品リサイクル法が、2007年に見直し改正されました。改正の目的は、リサイクル実績がなかなか上がらない外食産業や食品を扱う小売業などに対しリサイクル率を向上させることにあります。食品残渣などの食品再生資源の発生量を報告することと、チェーンで展開している店舗のリサイクルを推進する

ために、各店舗から集めてリサイクルする「リサイクルループ」の仕組みが、改正食品リサイクル法に盛り込まれました。

ユニーでは従来より店舗から排出される廃棄物を計量し、それぞれの実績を把握するとともに、食品リサイクルループの構築に努めてきましたが、今後さらに適正にリサイクルを進めていきます。

ユニーの方針

ユニーの食品リサイクルの方針

- 1 **安全であり環境負荷が少ないこと。**
(大気汚染・水質汚染を予防し、省エネであること)
- 2 **再生資源として有効であること。**
(有価資源になり再廃棄しない)
- 3 **経費が抑えられること。**
(公共処理料金との比較)
- 4 **継続できる方法であること。**
(リサイクルルートが確立していること)

リサイクル実績

食品リサイクル率は2006年度実績で30.2%と、食品リサイクル法で義務付けられた20%を達成しています。2006年度は各地のリサイクルループが軌道に乗り、食品残渣を原料とした堆肥で栽培した野菜や、飼料にして飼育した豚の肉などの店頭販売も順調でした。また、魚のアラや廃食用油のリサイクルループを開発し、これらのリサイクル率が向上しました。ただし、飲食の食べ残しや、調理済み残渣のリサイクルが思うように進まず、昨年より僅かにリサイクル量は減っています。今後は、さらにリサイクルを推進するために、①魚のアラや廃食用油の全量リサイクル②各地域での自治体や農業者との協働を構築していきます。

店舗から発生する食品残渣(生ゴミ)	排出量	リサイクル量	リサイクル率
生鮮食品の調理クズ(野菜・果物他) 賞味期限切れや飲食の食べ残し	14,886t	2,244t	15.1%
魚のアラ (魚介類の調理クズや内臓・骨)	3,568t	2,840t	79.6%
食品廃油(揚げ油他)	1,263t	1,148t	90.9%
てんかす	988t	21t	2.1%
合 計	20,705t	6,253t	30.2%

食品リサイクルの歩み

2001年に食品リサイクル法が施行されるにあたって、ユニーでは各地で「地域循環」を目指し、できるだけ環境負荷のないリサイクルの構築に努めてきました。

- 2000
・福井市で地域循環堆肥へのリサイクルに取り組む
・名古屋市内店舗に熱乾燥処理機導入(アピタ新守山店)
- 2001
・アピタ福井大和田店が地域循環堆肥へのリサイクルに参加
- 2002
・茨城県で堆肥へのリサイクルに取り組む
・愛知県内2店舗に真空乾燥機導入(アピタ岡崎北店、アピタ東海荒尾店)
- 2003
・富山市内4店舗、富山エコタウンに参加
(バイオガスによる発電)
- 2004
・長野県(アピタ伊那店)、奈良県(アピタ大和郡山店)の店舗に真空乾燥機導入
・愛知県3店舗で愛知経済連の協力により堆肥化及び作物栽培・販売の実験開始
・三重県で堆肥へのリサイクルに参加(アピタ鈴鹿店)
- 2005
・三重県で堆肥を作って栽培した作物の販売開始(アピタ松阪三雲店)
・愛知県で2店舗(アピタ瀬戸店、アピタ江南西店)乾燥機導入
- 2006
・横浜市内3店舗が店舗から排出した食品残渣を飼料にして飼育した豚の肉を販売する「横浜有機リサイクル」(登録再生事業)に参加
- 2007
・愛知県で構築した「食品リサイクルループ」が1月に食品リサイクル法再生利用計画に認定
・けやきウォーク前橋(アピタ前橋店)に真空乾燥機を設置し、「大根のツマ」をつくるリサイクルループに加わる

食品リサイクル法再生利用事業計画が認定

ユニーが進めてきました「食品リサイクルループ」が食品リサイクル法の再生利用事業計画に、全国で初めて認定されました。2003年より店舗（アピタ刈谷店、知立店）から排出された食品残渣（野菜くず・魚のアラ）で作った堆肥を使ってJAあいち海部で栽培した農作物を店舗で販売するという、リサイクルの環を、農林水産省・環境省・経済産業省により認定されたものです。食品残渣のリサイクルが推進されただけでなく、お客様に「安全で新鮮そして美味しい」と喜んでいただける野菜や果物を店舗で販売することができました。



ユニー（株）青果部 河合昌樹

食品リサイクルの青果売場は、朝陳列した野菜が夕方には売切れてしまうほどの人気。最初は、食品残渣を使って栽培した作物を仕入れ販売することに、あまり積極的ではありませんでしたが、できた野菜が予想以上に良いものであったこと、そしてお客様に喜んで購入していただいていることで、今ではさらに拡大することを考えています。



愛知経済連 澤田静雄さん

食品残渣からの堆肥が農地に使えるか、内容によっては土壌汚染や作物の成長に影響しないか、などの懸念事項をクリアするため、2年かけて成分分析や栽培実験を実施。徹底的に問題点を解決しました。現在では、農家が安心して使えるという確信を持って実践。堆肥内容、作物の育成具合、販売すべてが順調に機能しています。



JAあいち海部 村山靖さん

今回のリサイクルで一番苦労したことは、JA会員の誰が何を栽培するかというコーディネートと、出荷時期を調整することでした。現在では栽培・出荷も順調で、店舗での販売も好調ですが、いつも売り場にバラエティーに富んだ野菜や果物を並べられるよう、計画・調整していくことを今後の課題として対処していきたいと考えています。



リサイクル農家 佐藤貞一さん

野菜作りは「土壌作り」が何よりも大切。その点、食品リサイクルで作った堆肥は土壌を肥やし、野菜を丈夫に育成することができる理想の堆肥です。また、病気や害虫にも強いので、農薬も最小限で済みます。今後も安全安心・新鮮で美味しい野菜を食べていただけるよう、がんばります。



ヒラテ産業 平手藤章さん

当社は、ユニー店舗の一般廃棄物の運搬を20年以上行ってきたのですが、ゴミとして燃やすことをもったいないと感じ、食品廃棄物を堆肥にする「ものづくり」をめざして取り組んできました。おいしい野菜をつくる安心安全な堆肥をこれからも作り続けていきます。

各地で進む食品リサイクルループ

ユニーの食品リサイクルは「地域循環型」の方向で取り組んできました。これは、ひとつには廃棄物に関する法律「廃棄物処理法」がユニーから排出する食品残渣（生ゴミ）を一般廃棄物としてい

るため移動させるには制約があること。また、地元との協力で「地産地消」（地元で取れたものを地元で消費する）への取り組みも同時に推進していくからです。

● 店舗に処理機を設置して環境作りに取り組んでいます



● 登録再生利用事業者とともに循環型栽培作物の販売拡大にも取り組んでいます



● 食品リサイクル「飼料化」にも取り組んでいます



環境負荷

事業活動における環境負荷

店舗や本社を含む各事業所では、事業活動にともなって、さまざまな環境負荷が発生します。これらを継続的に軽減していくために、事業活動の環境負荷の状況を調べ、従業員ならびに関係している人々が、それぞれの環境保全活動を実践しています。

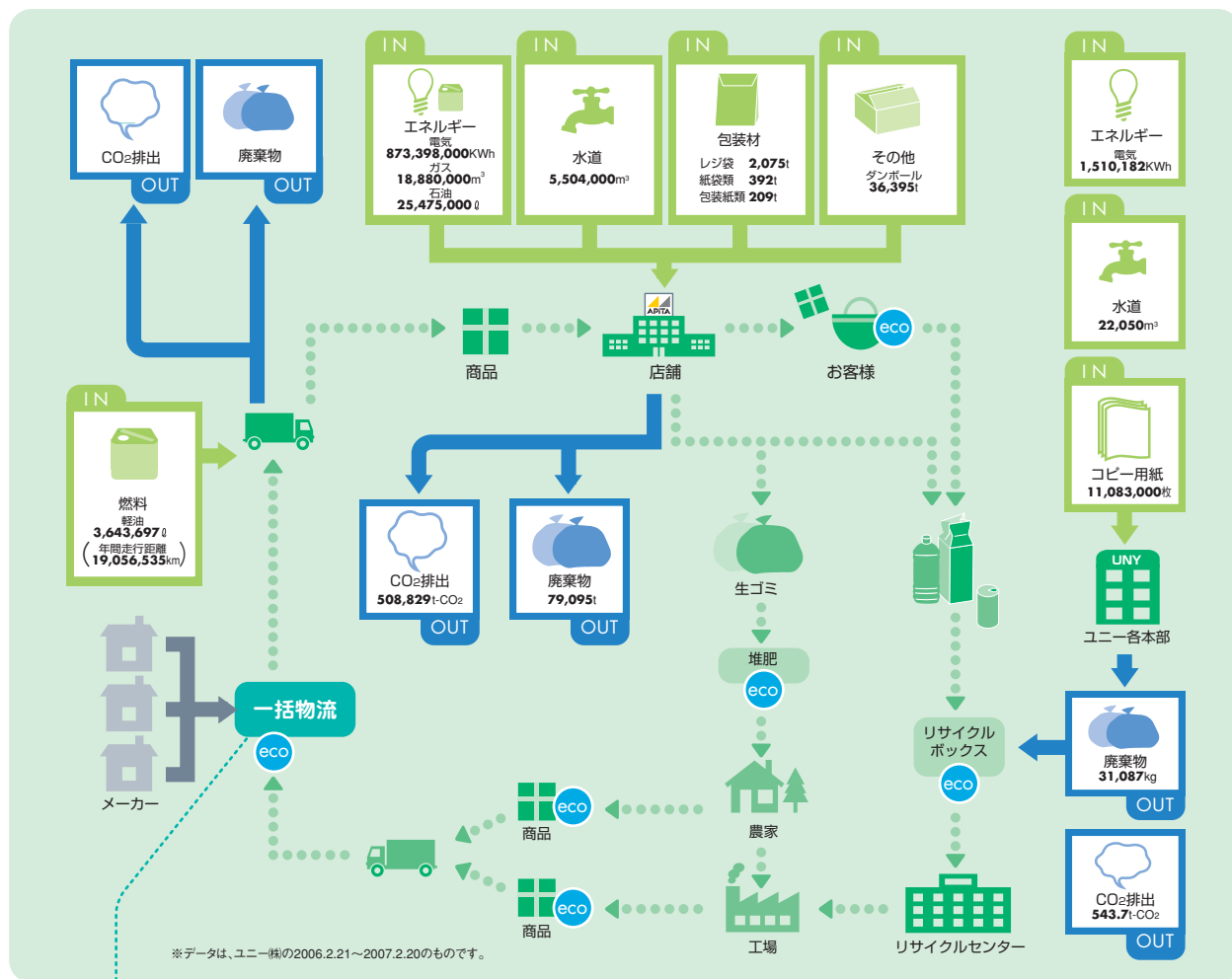
事業活動の環境に対する影響

● 事業活動における環境負荷

店舗や事業所では、照明や空調・その他設備を稼働させるためにたくさんのエネルギーを使用しています。また、店舗に商品を搬入するためにトラック便が走り、燃料を使い排気ガスを排出しています。その他営業活動から排出される廃棄物や、お客様が商品と一緒に

お持ち帰りになる「包装資材」も環境負荷の大きな要素です。ユニーでは、「省エネ省資源」を環境方針に掲げ、できるかぎり環境負荷の少ない企業を目指します。

IN インプット OUT アウトプット eco 環境負荷軽減



営業本部 物流部部長 村井 秀紀



平成18年4月に施行された改正省エネ法に基づき、全ての荷主に省エネ対策を講じられることが要求され、特に輸送量の多い(年間3,000万トンキロ以上)荷主は、特定荷主として特別な義務が課せられることになりました。これを受けてユニー物流部では、エネルギー使用量・二酸化炭素排出量の報告と中長期的に原単位1%削減を目標とする今後の省エネ対策の計画を行政に提出。混載便の運用や車両大型化による便数の削減などの具体策を積極的に講じていく予定です。

弥富物流センター 所長 木村 卓造



当センターでは、熱感知照明設備(庫内・トイレ)による熱エネルギー使用量の削減をはじめ、アイドリングストップの励行、段ボールから折りたたみコンテナ梱包への切り替えによる循環型物流の実現など、設備・運用の両面からさまざまな試みを行っています。また、センター内にリサイクルセンターを併設し、アルミ缶・牛乳パック・トレイ・ペットボトルなどを店舗配送便の帰り便を利用して毎日回収。リサイクル業務の中継地としての役割も担っています。

Ⅰ 省エネルギー・省資源活動

限りある資源を大切に使うため、また環境負荷を軽減するために、全社で省エネルギー・省資源に取り組んでいます。その活動は、節電や節水、事務用品の再生製品利用など、多岐にわたっています。

ユニーの省エネルギー活動

🍏 トイレの節水

流量を調整することにより、節水に努めています。



🍏 事務所内の室温管理

本部事務所内の空調を夏は28℃、冬は19℃に設定しています。

🍏 「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(改正省エネ法)

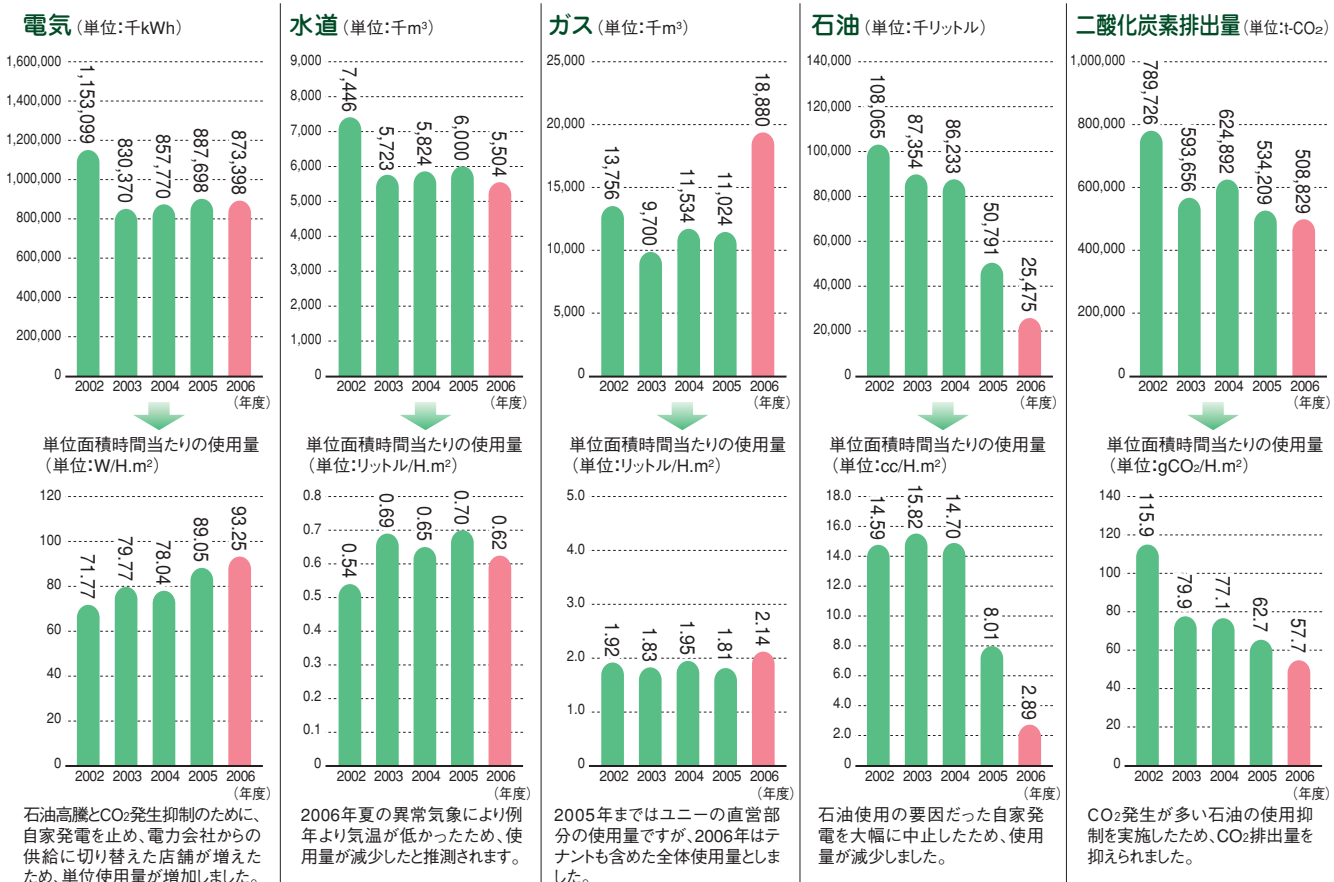
熱エネルギーの重油換算1,500kℓ以上が第2種指定工場、3,000kℓ以上が第1種指定工場に指定され、エネルギーの使用実績の報告と、それぞれ管理責任者及び管理委員会の設置・削減計画の策定が義務付けられました。ユニーでは第2種に49店舗、第1種に2店舗が指定され、従来の省エネ活動に加えエネルギー使用削減のために設備面での改善、省エネ運動などを計画・実施しています。

🍏 ブラックイルミネーションの実施

環境省主導の「ブラックイルミネーション2007」に参加しました。これは「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン」の一環で、6月24日の午後8時～10時の2時間、商業施設や家庭などに電気を消すことを広く呼びかけたものです。



エネルギー使用量の推移



2006年度のCO₂の換算係数は下記より換算しました。

電気:「特定排出者の事業活動に伴う温室効果ガスの排出量の算定に関する省令(平成十八年経済産業省環境省令第三号)」に基づいた経済産業省環境省告示第三号 官報4548号) 水道:独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO₂排出源単位の算定根拠」(環境省奨励)

ガス・石油:温室効果ガス排出算定・報告マニュアルVer.1.1 平成十八年経済産業省環境省に基づいた「算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧」

※データは、各年度ともユニー(株)当年2月21日～翌年2月20日までのものです。

廃棄物や容器包装を削減する取り組み

廃棄物削減

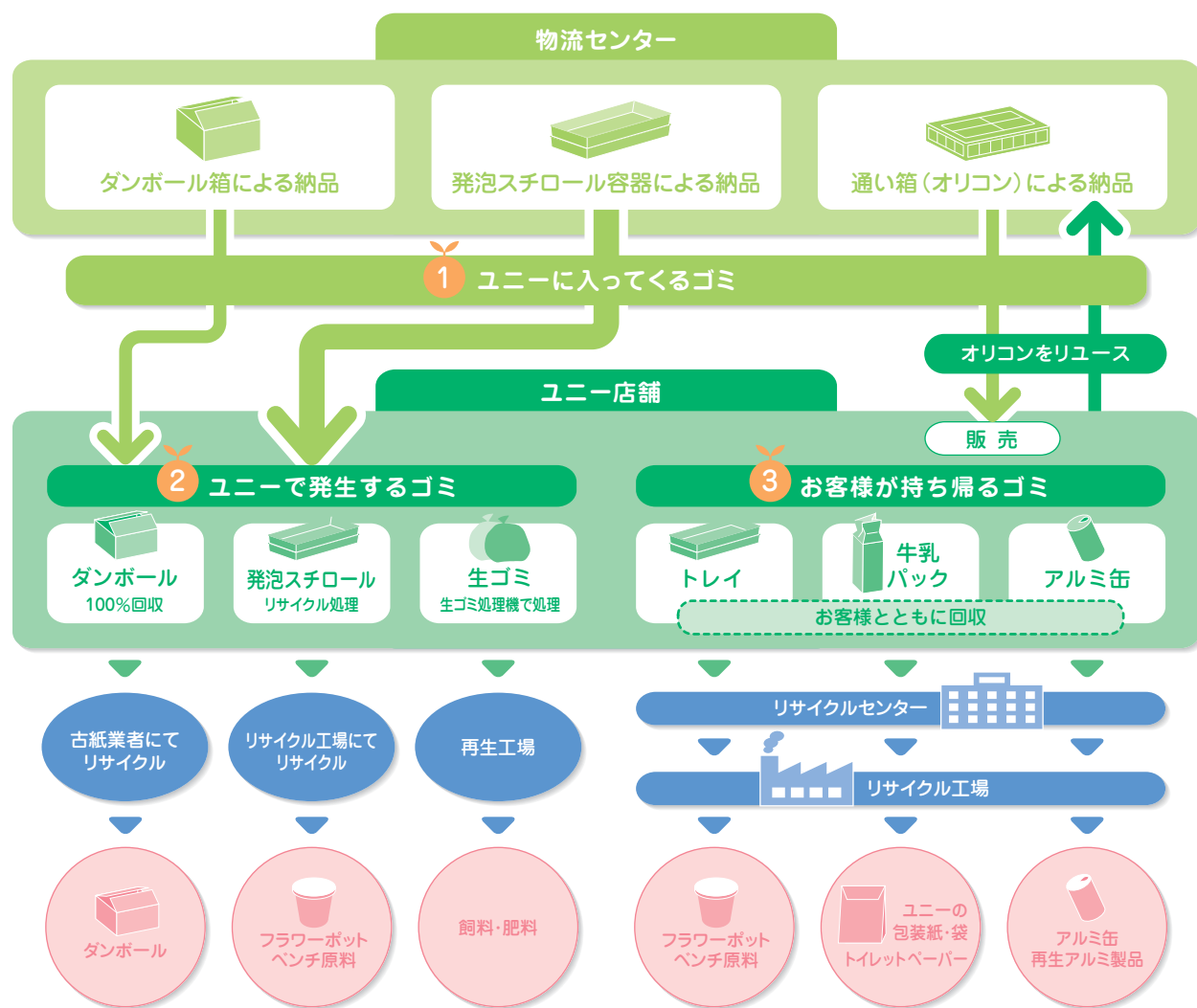
店舗から排出される廃棄物には、商品搬入に使われるダンボールや発泡スチロールの箱などの包装資材や、食品の加工や飲食の食べ残しなどの食品廃棄物などがあります。

これらはできるだけ廃棄せずに、リサイクルするように努力しています。

また、お客様が持ち帰った後で家庭で発生するゴミ（空容器や包装資材）は店舗で回収し、リサイクル製品の原料にしています。

廃棄物削減のための取り組み

● 廃棄物の再資源化



1 ユニーに入ってくるゴミ

商品搬入時に商品を入れてきたダンボール箱や発泡スチロールの容器を使い捨てから通い箱（オリコン）にすることによって、廃棄物の発生を抑制しています。

2 ユニーで発生するゴミ

店の中での販売活動や商品加工・サービスから発生する廃棄物をリサイクル資源にする取り組みをしています。

1. 発泡スチロールの再資源化（詳細はP15、16）
2. 食品廃棄物の再資源化（詳細はP17、18）
3. ダンボールは100%リサイクル

3 お客様が持ち帰るゴミ

牛乳パック（再生紙の原料）やアルミ缶（再生アルミの原料）、食品トレイ（再生プラスチックの原料）は、各店舗にリサイクルボックスを設置し、ゴミの再生利用をお客様と一緒に取り組んでいます。（詳細はP15、16）

2006年度年間廃棄物排出量

店舗における廃棄物排出量

ユニーでは、廃棄物排出削減とリサイクル推進のために、店舗から排出される廃棄物を19種類に分別しています。また、排出場所ごとに分別した廃棄物をそれぞれ重量を計量し、廃棄物の排出責任を明確にしています。分別の徹底と、計量実施の結果、2006年

度の総排出量は前年より2.37%削減できました。特に焼却ゴミが削減したことは、分別に対する取り組みが進み、リサイクルが推進されたためと推測されます。また、不燃ゴミが増加したことは、ピン・缶の店内のお客様用ごみ箱からの回収量が増加したためです。

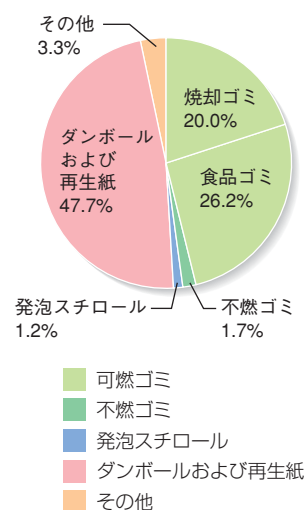


(単位：kg)

区 分		種 類	2004年度	2005年度	2006年度
可燃ゴミ	焼却 ゴミ	一般可燃ゴミ	10,542,539	11,944,417	11,363,301
		ビニール（食品系）	3,819,953	5,468,528	4,473,957
		小計	14,362,492	17,412,945	15,837,258
	食品 ゴミ	生ゴミ	16,504,679	15,811,962	14,885,741
		魚のアラ	3,306,785	3,714,642	3,568,186
		てんかす	1,089,263	899,429	988,113
		食用廃油	1,144,213	1,322,161	1,262,589
		小計	22,044,940	21,748,194	20,704,629
不燃ゴミ	ビン		682,451	611,612	795,980
	缶		561,028	539,657	530,653
	小計		1,243,479	1,151,269	1,326,633
発泡スチロール			1,542,162	1,529,029	997,262
ダンボール および再生紙	ダンボール		39,567,091	35,266,611	36,395,499
	紙類（再生可）		1,956,064	1,484,058	1,317,484
	小計		41,523,155	36,750,669	37,712,983
その他	プラスチック		678,906	422,732	594,698
	ビニール（衣住系）		1,281,590	1,151,269	850,875
	ペットボトル		339,453	206,869	292,774
	陶器、ガラス		53,178	161,897	118,940
	金属カス		208,281	89,943	155,536
	その他		382,882	386,755	503,206
	小計		2,944,290	2,419,465	2,516,029
合計			83,660,518	81,011,571	79,094,794

（単位：kg）

2006年度 廃棄物の構成



※データは、各年度ともユニー(株) 2006年2月21日～2007年2月20日までのものです。



店舗での取り組み

ユニー各店舗での取り組み

年齢や性別、障害の有無にかかわらず、すべてのお客様が快適にお買物できるよう、ユニーでは店内各所にさまざまな工夫を凝らしています。

さらに、地域の方々と力を合わせて包装資材の削減や廃棄物の削減・分別などを実施し、環境保全に貢献しています。

環境に配慮した設備や工夫

“環境に配慮した店づくり”を目指しているユニーの店内では、ゴミ減量、リサイクルや省エネを推進するため、さまざまな設備を用意するとともに、販売方法にも工夫をしています。特にお客様とともに進める

① リサイクルステーション

牛乳パックをはじめ、アルミ缶、トレイ等お客様がお買い上げ後にゴミになるものを回収し、リサイクルしています。



② 分別ゴミ箱

店内各所に「燃やせるゴミ」や「燃やせないゴミ」など分別したゴミ箱を置き、ゴミを分別回収しています。



③ リサイクル処理機

生ゴミは肥料、発泡スチロールはプラスチックチップなど、再生資源としてリサイクルを行っています。



④ 環境配慮商品

資源リサイクル、環境を汚さない商品、省エネ・省資源商品など環境保全を考えた商品を揃えています。



⑤ 情報の開示

ユニーの取り組みをポスターなどで紹介・報告しています。



⑥ 廃棄物計量システム

各売場やテナントから排出される廃棄物を分別し、計量することにより、減量やリサイクルの促進を図ります。



ユニバーサルデザイン

⑦ 多目的トイレの設置

車椅子でご利用いただけるトイレです。また、妊婦の方やお年を召した方もご利用いただけます。



⑧ 段差のない入り口

駐車場と店内の段差をなくし、公道入り口から各玄関まで誘導ブロックを設置しました。



⑨ 車椅子専用駐車場

入り口の近くに、車椅子専用駐車場を設置しました。



⑩ 車椅子の無料貸し出し

店内でご利用いただける車椅子をご用意しています。



⑪ 優先エレベーター

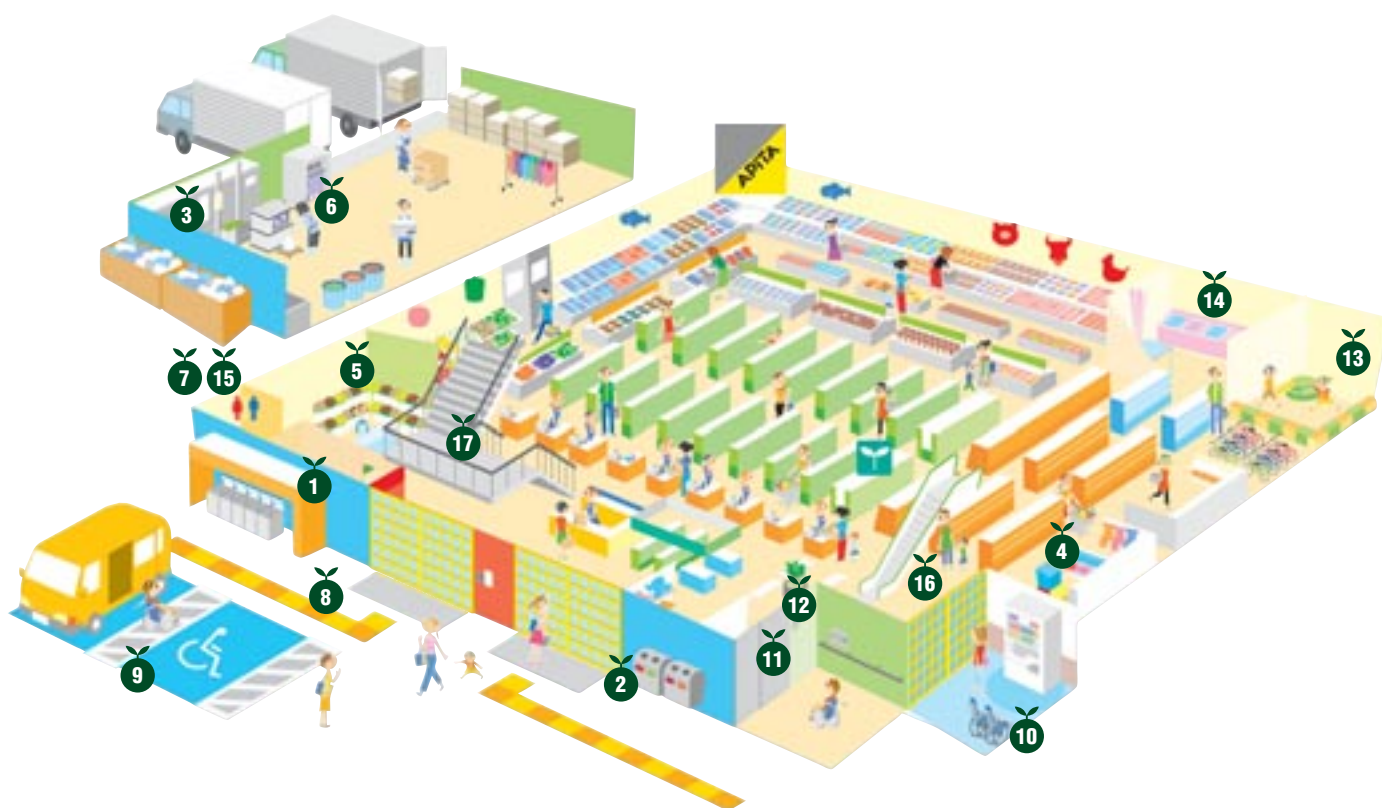
混雑時などに車椅子の方が優先的にご利用いただけます。音声案内・点字表示をし、低い位置に操作ボタンを付けました。



⑫ 介添えサービスの実施

1階各出入りにインターホンを設置し、お呼び出しによって介添えサービスのご要望にお応えします。





お子様連れの方への配慮

13 小さなお子様の遊び場

小さなお子様に、安全に遊んでいただけるように、床や遊具にソフトな素材を使用した遊びのスペースを設けています。



14 ベビー休憩室（赤ちゃんルーム）

お子様の授乳やおむつ替えにご利用いただけるベビー休憩室（赤ちゃんルーム）を設けました。



15 男性用トイレにベビーシート設置

男性用トイレにもベビーシートを設置しました。



よりよく利用していただくためのサービス・工夫

16 アピタのおいしい水

飲料やお料理に使用していただける浄水機を設置しました。



17 危険防止の工夫

危険防止のために、店内の階段には手すりを付け、足元に誘導ブロックを設置しました。



バリアフリー新法

ユニーはすべてのお客様に快適にご利用いただける店づくりに取り組んでおります。バリアフリー新法とは、「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」で、平成18年12月20日に施行されました。





子供環境学習

環境について学ぶための取り組み

地球温暖化やそれに伴う異常気象など、環境の変化を身近に感じられる今日このごろ。
 未来の地球環境を守っていく子供達と一緒に学び、考えていくために「子供環境学習」を各地で開催しています。
 2006年度は全地区18会場で開催し、368人の子供達が、店舗や自然の中で「未来の地球に美しい自然を残す」ために、
 環境保全活動を体験しました。

エコロお店探検隊

毎日の生活の場の1つであるユニーの店舗で、「環境にやさしいお買い物」の体験や、店舗から排出される廃棄物の分別・計量・リサイクルの実態を見学しました。店舗で販売している商品の中から「環境にやさしい商品」を選ぶ体験は、グリーンコンシューマーになるための目を養います。



中日新聞社
「中部の未来育成塾」



「環境にやさしい買物」について
売場で商品について学習しました。



「混ぜてしまったらゴミ、分別すれば資源」店舗の廃棄物庫の見学をしました。

収穫体験

ユニーと一緒に構築している「食品リサイクルループの農業」を子供たちと体験しました。毎日の食卓に並ぶ食物が、どのように作られているかを自分の目で見て、収穫して、「食物を大切にする」ことを学びました。

🍎 JAあいち海部での農業体験

愛知県の西にあるJAあいち海部は、アピタ刈谷店・知立店・アピタ安城南店で排出された食品残渣から作った堆肥を使って作物を栽培しています。田植えや稲刈り体験、牧場で酪農体験をしました。



🍎 (有)三功での収穫体験

三重県にある食品リサイクル登録再生利用事業者(有)三功がアピタ松阪三雲店・アピタ四日市店・アピタ鈴鹿店から排出された食品残渣を堆肥にして、それを使って作物を栽培しています。この循環型農業を見学し、収穫体験をしました。



NPOとのコラボレーション

地域で環境保全活動を行っている各地のNPOと一緒に環境学習を実施しました。これはNPOと企業とのコラボレーションを推進している環境省中部エコパートナーシップオフィスとの合同企画で、北陸3県の店舗で各地のNPOと開催したものです。
 NPOに「店舗」という活動の場を提供し、子供達は地域の中での環境保全について体験することができました。



環境省 中部環境 パートナシップ オフィス

地域のNPOと企業とのコラボレーションによる環境活動を推進するために、環境省が各地にEPOを設置し、中部地方では名古屋に事務所を置いています。ユニーは2005年から「子供の環境学習を地域のNPOと一緒に進める」をテーマに中部EPOと協働してきました。



2006年には、ユニーの目指す環境保全活動を理解していただくために、地元NPOの皆さんを対象に「環境レポートを読む会」をEPOで開催しました。

地元企業とのコラボレーション

2006年11月12日、中部電力（株）との共催で、地域NPO中部リサイクル運動市民の会と一緒に「エコクッキング」を実施しました。



当日は名古屋市のアピタ千代田橋店で「環境にやさしいお買い物」を学習し、エコクッキングの材料を買い物しました。その後中部電力のクッキングスタジオで「エコなお好み焼き」をみんなで作り、買ってきた材料や調理方法、残った材料の量などを調べ、環境にやさしいクッキングについても学びました。

夏休み自然探検隊

🍌 白川郷トヨタ自然学校

2005年から始めた自然探検隊を店舗で実施した「環境にイイことプラス イラスト募集」に応募した子供達20名で、2006年8月24日～26日に岐阜県のトヨタ白川郷自然学校で開催しました。地域の子供

達と白川郷の自然の中で、古くから受け継いできた自然との協調や森の中の生き物との出会い、水素電池の実験などの新しい技術の体験などを通し、環境への関心を深め、たくさんの思い出を作りました。



ピック・アップ・ストア（アピタ前橋店）

アピタ前橋店における環境への取り組み

ユニー初のモール型ショッピングセンター「けやきウォーク前橋」（アピタ前橋店）は、地域の環境保全やお客様すべてが便利で快適に利用していただける店作りに取り組みました。環境問題やバリアフリーについて学習し、店舗から排出される廃棄物を分別・処理して、できるだけリサイクル資源として利用するシステムや、車椅子でのお買物が快適にできるような設備の設置をしました。また、設備面だけではなく、けやきウォークで働くメンバー一人ひとりが、より親切で的確なサービスが提供できるように努めています。

店内施設・施設

環 境



けやきウォークはモール全体に自然の光が差し込むような設計です。照明を抑え、環境にもやさしいモールです。



食品トレイやアルミ缶、牛乳パックなどを店頭回収するエコステーションには、リサイクルの過程やリサイクル製品がわかりやすく展示してあります。



食品残渣（生ゴミ）の真空乾燥機を設置し、堆肥の原料に加工しています。この堆肥で栽培した大根で、アピタの刺身のツマをつくり販売しています。



分別ゴミ箱を館内に設置し、お客様にも分別回収にご協力いただいています。分別することにより、廃棄せずにリサイクル資源として利用することができます。

バリアフリー



この駐車場はパークロックを設置しているの、インフォメーションでの受付によりご利用いただけます。



店内の自動販売機やフードコートの手洗いは、車椅子でもご利用いただけるように、高さを工夫したものを設置しました。



多目的トイレにはオストメイトや着替え用ベッド、温水が出る手洗いなどが設置され、スペースも広く取ってあり車椅子でも快適にご利用いただけます。



インフォメーションにAEDを設置しました。消防署で操作方法を習得し資格をもつ15名の従業員が、不測の事態に備えています。

ファミリー



モールの吹き抜けにはイベントなどに使用できるけやきコートがあり、ファミリーで楽しんでいた催し物や大画面での映像をお楽しみいただけます。



自転車来店されるお客様のために、駐輪場にはタイヤ空気入れを設置しました。



モールの1階中央にはインフォメーションがあります。店内ご案内以外に、携帯電話の充電器やAEDなど便利な設備もあり、親切なサービスを提供しています。



小さなお子様やお年寄りにも使いやすい高さの水飲みを設置しました。



赤ちゃんルームには、お母さんと赤ちゃんがゆっくり授乳していただける個室と、オムツ交換用ベッド、調乳専用給湯器を設置しました。

毎日つながる、しあわせ～よい環境が生まれる場所～

店長 浅井 和彦



アピタ前橋店と157の専門店「けやきウォーク前橋」は、ユニー（株）初となる本格的モール型ショッピングセンターとして2007年3月にオープンしました。ストアコンセプトは、「Good Circulation Place」（グッド・サーキュレーション・プレイス）。人と人、人と自然、自然と街とのつながりを生み出す「サーキュレーション＝循環」を大切に育み、季節や世代をこえ、それぞれの暮らしのシーンにフィットした衣食住を楽しみながら、誰もがいつでも立ち寄れる場所となることを目指しています。モールゾーンには、暮らしが楽しく便利になることをテーマに、飲食店はもとより、各種相談窓口カウンター、教室、クリニックなどライフサポート業種などを招致。近隣にお住まいの方のよりどころになる「タウンセンター」としての機能も充実させています。アピタゾーンでは、ワンランク上の上質な暮らしの品、地産地消やオーガニックなどこだわりの食料品をフルラインで提供し、モールゾーンと融合した売場を構築しています。今後も、お客様の笑顔としあわせに貢献できる店づくりを継続していきます。

人に優しく・環境に優しい店づくり

業務副店長 大平 敏康



けやきウォーク前橋は、「バリアフリー法」認定のショッピングセンターとして、年配の方や体の不自由な方にも気軽にご利用頂けるよう、「多目的トイレ」「車椅子専用駐車場」「車椅子の無料貸し出し」「AEDの設置」「オストメイトイレ」等を用意しております。また、環境に優しい店づくりとして、当社関東地域では初めて「リサイクルセンター」を設置。「生ゴミリサイクル機」で作られた食品残渣のリサイクル堆肥による野菜の栽培・販売をはじめ、店舗廃棄物の計量化、発泡スチロールのインゴット化（固形化）、ダンボール・ペットボトル・ビン・缶・魚のアラ・廃油等のリサイクルなどを実現しています。お客様への対応としては、リサイクルボックス（牛乳パック・食品トレイ・ペットボトル・アルミ缶）、インカートリッジ回収ボックスの店頭設置やお子様向けの「食育のイベント」「環境体験学習」の実施、また食品レジの後方に設置された「エコステーション」では、それらのリサイクルへの取り組みを紹介しています。これからも、本社環境部と協力し、「人と環境にやさしい店」を目指していきたいと思ひます。

地球から信頼され、愛されるSCを目指して

モールチーフMGR 名越 明



「水と緑と詩のまち」と言われる上毛の県都前橋は、古来より自然環境に恵まれたところ。その前橋にオープンした「けやきウォーク前橋」は開店以来予想以上のお客様にご来場頂き、年間1000万人を超えるペースで推移しております。我々だけでなく専門店従業員も驚きと感謝の気持ちで毎日頑張っています。それだけに地域の方々からの当SCへの期待は高く、品揃え、接客サービスにとどまらず、社会貢献、とりわけ環境への配慮といった部分への企業姿勢が問われています。そこでオープン前の従業員教育に相当数の時間を割いて廃棄物処理についての教育をしたのですが、最初はあまり意識が高くない、生ゴミの中に、包丁やフォークが入っていたりと散々な状況でした。その後店長会や新入従業員教育の際、必ず廃棄物処理の時間を設け、生ゴミ処理機の操作体験してもらった等の地道な教育の結果、現在はかなり改善されてきました。今後も更に活動を続け、地域から信頼され、愛されるSCを目指して全員一丸となって頑張っていきます。

街と調和し、住民から親しまれる場所を目指して

モール施設管理担当 若林 俊也



けやきウォーク前橋は、従来のショッピングセンターに比べ、照明や空調設備などエネルギー削減のための取り組みを積極的に行っています。例えば、冷暖房の効率化を考慮し、モールの吹き抜けにガラスを多く使って自然光を取り入れる仕組みなどもそのひとつです。また、オープンからの日が浅く、その効果については十分な検証がされていないのですが、今後さらなる改善に努めていきたいと考えています。環境保全活動に関しては、特に廃棄物のリサイクルに注力し、当店で一日に排出される約2.5tの廃棄物も、ダンボールなどの紙類、缶・ペットボトルはもちろん、調理クズ・食べ残しなどの食品廃棄物もリサイクルして堆肥として利用しています。こうした活動をお客様にアピールし、もっともっと関心を持っていただけるように努めます。また、当店には以前から植えられていた桜の木60本を現存して従業員が世話をし、美しく咲き誇る春には訪れるお客様の目を楽しませています。環境配慮のための緑化ということだけではなく、近隣住民の皆様にも親しんでいただけるモールとして今後も大切に育てていきたいと思ひます。

環境配慮商品

売り場での取り組み

普段使っているものを「環境にやさしい」という視点で購入していただくことが地球環境を守ることにつながります。ユニーでは、環境にやさしい素材や資材を使ったさまざまな商品を販売しています。

資源リサイクル、環境を汚さない商品、省エネ・省資源商品

● 環境を汚さない商品

汚染防止に役立つ商品には大気・水・土壌を汚さない原料で作られている商品や、汚水や排気を出さないための商品があります。



● 資源リサイクル商品

使用後にリサイクルできる商品や、再生資源からできた商品は石油や森林資源など貴重な資源の節約につながります。



● 省エネ・省資源商品

使用するエネルギーを抑えた商品、容器包装などのムダを省いた商品、長期間使用できる商品は、省エネルギー、省資源、廃棄物の削減に貢献します。



● クールビズ商品

地球温暖化を防止するため、オフィスの冷房設定温度を28℃にしても、「涼しく効率的に格好良く動くことができるビジネス・ファッション」それが「COOL BIZ」です。これは環境省が提唱している「チーム・マイナス6%」のCO₂削減運動のひとつです。店舗ではお客様にクールビズファッションを販売するとともに、従業員もクールビズで業務を行っています。



家電リサイクル

● 家電リサイクル券取扱優良店の認定

家電品売場のお客様の目につきやすい場所にポスターを貼ったり、販売スタッフがきちんと説明したりするなどして、家電リサイクル法に対するお客様への理解を深めています。そうした取り組みもあって（財）家電製品協会から「家電リサイクル券取扱優良店」の認定を受けることができました。



環境に配慮した家電製品を取り扱っています。

- 省エネ法に定められた基準に対する達成率を「省エネ性マーク」で商品に表示しています。
- 家庭用冷蔵庫は、地球温暖化への影響が極めて少ないノンフロン冷媒を使用したものを販売し、地球にやさしいお買物をお客様と一緒に進めています。

省エネ性マーク

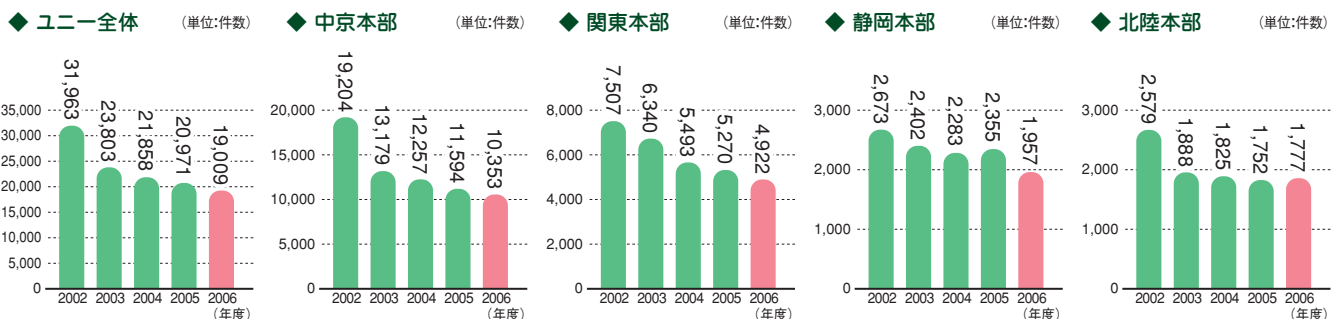


このマークは、省エネ性を明示するものです。%の数値が大きいほど省エネ性が優れています。



このマークは、省エネ基準を達成した機種を示します。

家電リサイクル状況



お客様の声

人にやさしく、環境にやさしい店づくりのために

よりよい店づくりのために、何よりもお客様のご意見を大切にしています。
お客様の声に真摯に耳を傾け、速やかな回答と迅速な対応ができる仕組みを整え、
商品やサービスの改善を進めています。

お客様の声のポスト

お客様の声がユニーを変えます

ユニーでは各店舗に「お客様の声のポスト」を設置しています。ポストには店舗施設や商品・サービスなどさまざまな意見・要望、お問い合わせ、またご指摘やお叱りの言葉が寄せられています。これらの「お客様の声」には店長が必ず回答し、店舗や商品、サービスなどに反映させていただいています。ポストに入れていただいている「お客様の声」はユニーがこれからも地域のお客様と一緒により良い生活を築いていくためのメッセージであり、羅針盤でもあります。1枚の「お客様の声」には、ポストには入っていないもっとたくさんの「お客様の声」が感じられます。これからも、お客様からのメッセージを真摯に受け止め、お客様に支持され期待される店づくりに努力していきます。

ご指摘・ご意見	1,876件	77.2%
お問い合わせ・ご要望	516件	21.2%
お褒め	39件	1.6%



※データは、2006年2月21日～2007年2月20日
(ユニー本部 受付分) のものです。

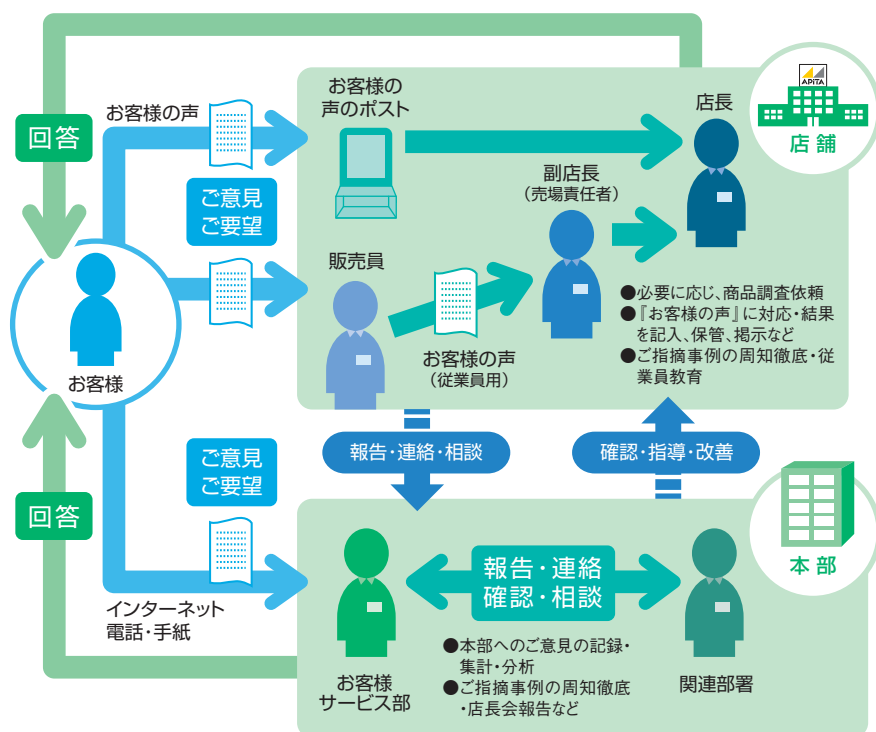
お客様の立場で さまざまな改善に努めています

お客様からお寄せいただきましたご意見、ご要望、ご質問などのうち、全体的な内容につきましては店舗から本部へ報告され、毎週とりまとめたうえで本部内、各地区本部、関係部署へフィードバックされ、商品開発や品揃え、売場づくりやサービス改善に活かされています。こうしてお客様の声が全社の改善につながるのです。

またさらに、「従業員の接客などのサービス」についてのご意見、ご要望が増加してきていることから、よりお客様に満足いただけるサービスレベルを目指し2007年に人事教育部に接客対応レベル向上の担当を設け、各店舗においても推進者を選出し全社をあげて取り組んでいます。

ユニーは、「生活解決業」としてお客様の声を大切に、お客様の立場にたって行動し、お客様に満足していただくために、日々さまざまな改善をしています。

「お客様の声」の流れと対応



ホームページからの 環境情報発信

ユニーのホームページでは、環境保全についての取り組みを紹介しています。「エコショッピング」「環境レポート」「やさしいくらしダイアリー」などがご覧いただけます。また、メールマガジン「エコNews」も作成しており、環境保全についての有益な情報を多くの皆様へ発信しています。

環境部 ホームページアドレス
<http://www.uny.co.jp/eco/>



社会貢献・地域貢献

地域のみなさんと力を合わせ地域社会の発展に貢献

ユニーは、お客様にとっての「お買物の場」の提供だけでなく、地域社会の発展とその責任を果たすことを目指し、育児相談や自治体・教育機関の研修のお手伝い、防火防犯意識の向上活動、災害時の支援、寄付金活動などの社会貢献活動に取り組んでいます。

地 域

ごみゼロ推進優良店の表彰

ごみゼロ社会推進あいち県民大会で、18年度優良店として、ユニー常滑店とアピタ豊田元町店が県知事より表彰されました。また、常滑店の事例紹介として、山岡店長が発表しました。



ナゴヤドーム、アクティブシニア・フェア2007に参加

アクティブシニアと呼ばれる50～64歳の輝かしいセカンドライフを迎えるための「健康・快適」「安心・安全」「娯楽・知的好奇心」「ファッション・美容」などのテーマで開催されました。名古屋を中心にした中京エリアの元氣なシニアのために、ユニーは健康とファッション、環境のブースで参加しました。



店舗での防火・防犯意識の向上活動

地域の警察署・消防署・自治体等と協力し、各店舗内のスペースで啓蒙活動を行っています。ポスターや書道の展示会をはじめ、消防自動車や救急車の展示、また実際に装備を動かしている場面の見学などを実施し、地域の子供達を楽しみながら防災について学ぶ場を提供しています。



地域の皆様との触れ合いの場の提供

地域の方たちとのふれあいの場として、「夏祭りの開催」や店頭ステージでの地域の子供達による発表会などを、各店舗で行っています。ユニーでは、このような活動を通じ、店舗近隣の住民の皆様との共生を願っています。



地産地消

「地元で収穫された新鮮な野菜や、地域の名産品を皆様に召し上がっていただきたい」という思いから、ユニーでは地元の団体と協力して、地場野菜の販売コーナーや地元名産品の取り扱いに積極的に取り組んでいます。

2007年4月に開店した「リバーサイド千秋」（アピタ長岡店）では、長岡地場野菜のコーナーを設置し、販売を行っています。



「クリーンアップキャンペーン」の実施

本社事務所、アピタ稲沢店、ユーホーム稲沢店で毎年実施している「クリーンアップキャンペーン」では、周辺道路の清掃を行いました。



災害支援活動

ユニーでは万一大規模災害が発生した時、被災された方々の生活必需品が速やかに提供できるように、地方自治体との「災害物資調達協定」締結を各地区で進めています。2007年7月16日に発生した「新潟中越沖地震」に対し、翌17日新潟県庁・知事室にてユニーグループ義援金300万円を寄託しました。その他、店頭および従業員募金の実施と、災害者の皆さんに対する支援物資の提供を行いました。



福 祉

サービス介助士資格の取得

お年寄りや体の不自由な方にもお買物を楽しんでいただけるよう、「おもてなしの心」と「介助技術」を身に付けることをねらいとした「サービス介助士（NPO法人日本ケアフィットサービス協会認定）」の資格を、全店舗の店長が取得しました。



「リサイクルバザー」＆「盲導犬チャリティーバザー」の開催

ユニー大曽根店では、「なごや消費者団体連合会」と共催で「リサイクルバザー」を開催。家庭で眠っている品物をお客様にお持ちいただき、必要な人に販売しました。また、「盲導犬チャリティーバザー」も同時開催し、全収益金150,000円を中部盲導犬協会に寄付しました。



ハート・トゥー・ユーキャンペーン

体の不自由な方用の駐車場の利用について、利用希望の方から、健常者の方が駐車スペースを使用し不便で困る、とのご意見をいただくことが多くありました。ユニーでは、NPO団体と共同で、優先駐車場の利用に対する意識向上を目的とした「ハート・トゥー・ユー」キャンペーンを大型店舗で定期的を開催しています。このキャンペーンは、賛同していただいた方に、障害者の方が作成したオリジナルステッカーを購入してもらい、それを自己宣言として車のウインドーに貼り付けるものです。より多くの方にご賛同いただき、体の不自由な方のお買物が快適になれば、と従業員一同頑張っています。



愛の救援衣料キャンペーンの開催

アピタ千代田橋店で、「名古屋を明るくする会」との共催で実施している、「愛の救援衣料キャンペーン」を本年度も開催しました。600名のお客様をはじめ、市民の皆様には「家庭で眠っている衣料品」を持ち寄っていただき、20tが集まりました。これらは、神戸にある「日本救援衣料センター」までユニーによって配送され、その後アジアやアフリカに送られます。



子 供

子ども図書館

「より身近な場所で、子供達が気軽に書と出会えれば」というコンセプトのもと、現在アピタ初生店、アピタ足利店、アピタ高蔵寺店、



サンテラス駿東の4店舗に「子ども図書館」を設置しています。蔵書は1館当たり約1.5～2万冊で、各館とも専門の司書が運営にあたっています。



育児相談

不安や疑問をたくさん抱えるプレママや子育てママを対象に、ユニーの大型店舗では赤ちゃんの健やかな生育のための育児相談会を定期的で開催しています（基本は週1回）。保健師さんとの相談なので、お母様方も安心して参加することができます。



インターンシップへの協力

インターンシップとは、中学・高校では社会体験として行われている体験学習です。ユニーでも各店舗で小売業に興味のある子供達の体験学習を受け入れています。学習期間を終えた子供達からは「働く事の大変さ」「お客様の目では気が付かない工夫の発見」などの感想と共に、両親に対する感謝の気持ちも寄せられます。また、小学校の授業の一環として取り入れられている「お店探検」の学習にも、毎年多数の小学生が参加します。



スポーツ競技会協賛

スポーツを通じた子供達の成長の為に、ユニーでは各種のスポーツ大会に協賛しています。2006年7月8日(土)には、「全日本ドッジボール選手権愛知大会」が開催され、県内の54チームによる予選会が開催され、熱戦が繰り広げられました。本年も7月7日に開催されました。また、2007年3月～4月にかけて、「親子サッカー教室」を関東・名古屋・静岡・北陸の各地区において開催しました。4会場合計で244名が参加し、元プロサッカー選手・中西哲夫氏をゲストに招き、親子でサッカーを楽しみました。



社員の能力開発・支援

人材育成の方針は、「任せて育てる」

ユニーでは社員一人ひとりが、自ら学び、考え、動く「考動」する人材になることをめざしています。

流通小売業に従事するビジネス人としてのスキルアップのみならず、

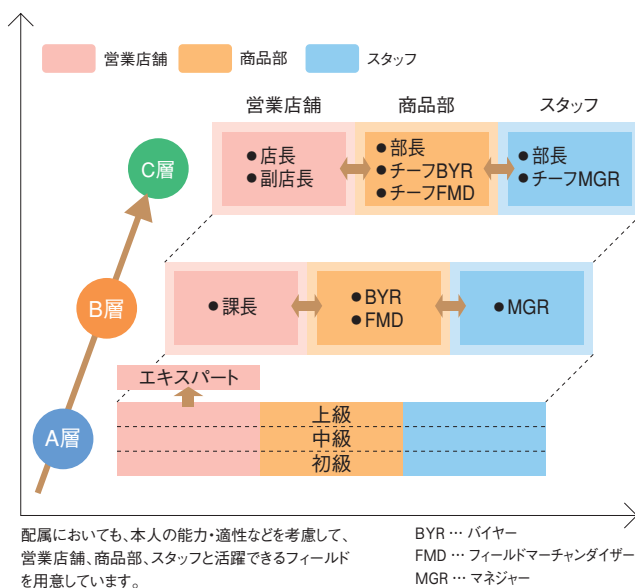
広く社会へと貢献できる人間力を育成するのが、ユニーの人材に対する考え方です。

安定した雇用環境や実力重視の人材登用、充実した福利厚生など、社員一人ひとりを強力にバックアップしています。

キャリアアップ制度

ユニーを支えているのは「人」。その能力を最大限に発揮させていくことが、会社の成長に繋がっています。そこでユニーでは、選抜登用制度を導入し、育成段階のA層から管理段階であるB・C層へ進むか、それとも専門段階のエキスパート職へ進むかは、自己判断で決定できるようになっています。

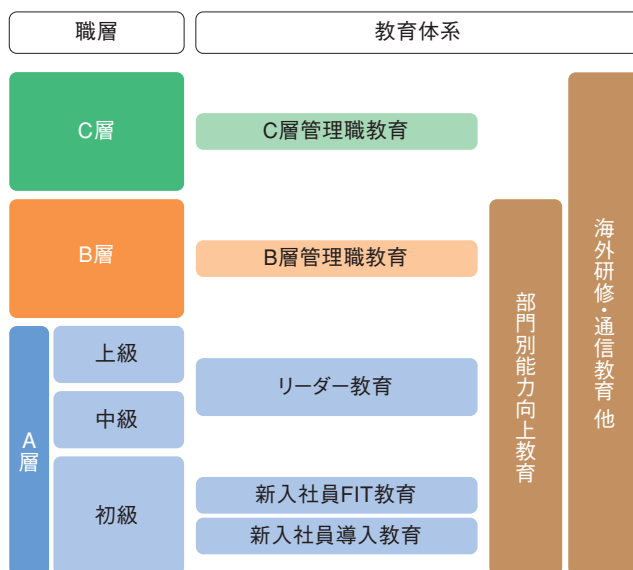
●キャリアステップ



充実の教育体系

権限委譲の方針からもわかるように、人材育成の基本はOJT教育です。しかし、新入社員については、入社前教育・新入社員導入教育・新入社員FIT教育と十分なOFFJT教育に力を入れています。また海外研修・自己啓発研修・商品担当ごとの教育もキャリアに応じて実施しています。

●教育体系図



財産形成

●持株会

毎月の給与より株式購入が可能

住宅関連

●自宅から通勤できない人には社宅を用意

●人事異動により転勤する場合、一定額の家賃を補助

労働時間

●実働8時間

休日休暇

●休日

年間115日（週休2日制）
連続休暇有

●年次有給休暇

入社半年後から初年度10日間を付与

手当

●通勤手当・時間外勤務手当・薬剤師手当・扶養手当・住宅費補助手当

●女性が活躍できる制度の充実

●自社商品割引購買制度
自社商品を1割引で購入可能

同居家族も利用できるよう「家族証」も発行
年間利用限度額なし

●出産休暇

本人が出産のとき産前6週間（多胎妊娠の場合14週間）産後8週間

●育児休業

1歳6ヶ月までの育児休業取得可能

●看護休暇

子供（小学校就学前）の病気・けが等の看護が必要な場合5日間取得可能、半日取得可能

●介護休業

介護が必要な家族を介護する場合に通算93日以内の取得可能

●育児短時間勤務

小学校3年生までの子供がいる場合、1日の所定労働時間を2.5時間～2時間短縮することが可能

●社員再雇用資格認定規程

一定条件を満たした対象者に、将来会社への再就職に際して優遇

その他

●障害者雇用

障害者雇用率1.8%以上の社会的責任を果たすため、障害者の雇用促進に努める

●65歳までの再雇用制度

65歳までの再雇用制度を設け、正社員・パートナー社員にも適用

●就労体験制度

公共団体からなどの企業研修の要請に応じて受け入れを実施
学生などの就労体験の受け入れを実施

●全店店長にサービス介助士2級取得を義務づけ

環境学習

環境について学ぶための取り組み

環境にやさしくお客様からも支持される店づくりのために、情報の開示を積極的におこなう一方、社員や関係する人々を対象にした環境学習を実施しています。環境保全活動についての学習をしたり、環境コミュニケーションツールにより、環境への意識を高めています。

本社従業員教育

①ISO集合教育

全従業員が「環境方針」を理解し、実現するために、環境マネジメントシステムISO14001を導入しています。環境計画の目標を達成するために、従業員教育を定期的に実施しています。



②防災訓練

「緊急事態への対応」として防災訓練を実施しています。本社事務所のある東海地方は大地震の予想がされているため、「地震対応マニュアル」の配布とその教育も実施しています。



③関連会社従業員教育

ユニーの従業員以外の派遣社員や社内で仕事をしている方々にも、ユニーの環境保全活動を理解し協力していただくための教育を実施しています。

新入社員教育

ユニーの環境方針の理解や、店舗での環境保全活動について、新入社員オリエンテーションで教育を行っています。



店舗での教育

①テナントその他の従業員教育

店舗に出店しているテナントや店内で仕事をしている方々に、環境保全活動の理解と協力をしていただくための教育を実施しています。



②廃棄物分別及び計量教育



店舗から排出する廃棄物の分別、計量を正しく実施し、排出抑制とリサイクル推進のための教育を実施しています。

環境コミュニケーションツール

🍎従業員教育マニュアル

社内規定をまとめたポケットガイドに、環境の基礎知識をまとめました。また、従業員マニュアルに環境のページを加え、より充実させました。



🍎新入社員テキスト

新入社員に対しても入社時から環境に対する知識を身につけ、理解を深める教育も実施しています。



🍎各店舗に環境壁新聞を掲示

ユニーの店内には、環境問題についてわかりやすく紹介した「やさしいくらしダイアリー」を掲示しています。インターネットからでもご覧いただけるように、ユニーのホームページでも掲載しています。



🍎社内報での情報の共有

社内報では店舗での取り組みを紹介し、従業員の環境意識を高めています。誌面には、「環境の欄」を設け、会社や各店舗での取り組み、成果などの情報を全従業員と共有しています。



食育への取り組み

心身ともに健全な社会に向けて、国を挙げての取り組みが始まった食育。

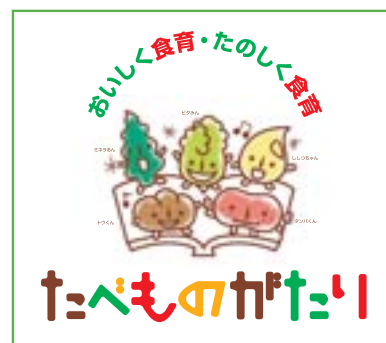
ユニーでは、子供から大人まで「健康で豊かな食生活」を送っていただくために、さまざまな食育活動を進めています。

ユニーの食育

心身ともに健全な社会のため、子供から大人まで食に関心を持ち、正しい知識を身に付け、美味しく楽しい食生活を送っていただけるよう食育活動に取り組みます。

ユニーの食育方針

- 1 新鮮かつおいしい食材を提供することにより味覚を養います。
- 2 食材の持つ栄養素とその働きを理解することにより体を養います。
- 3 食材のルーツをたどることにより食べ物を大切にする心を養います。
- 4 食材本来の味や特性を活かした調理や料理ができる技を培います。
- 5 合理的な手法を用いた商品選択により安全・安心な食材提供に努めます。



ユニー(株)の食育理念

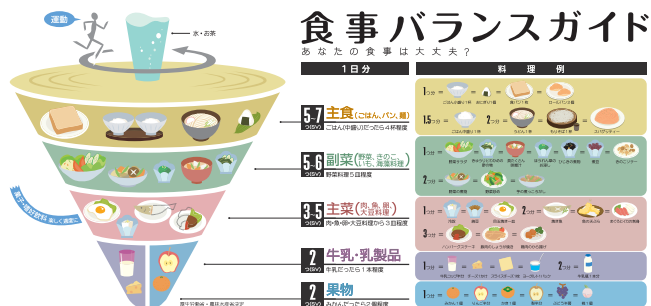
**私たちは、食と食に関わる情報の提供を通して、
食の大切さや楽しさを地域のお客様と共有化します。**

この食育理念を基に、食材の旬・生まれ・栄養素・調理方法や
昔ながらの伝統食など、親から子へ語り伝えていきたい
食の物語を「たべものがたり」と名付け、
皆様にわかりやすくお伝えしていきます。

食事バランスガイドモデル実施事業取組内容の報告

「食事バランスガイド」を活用したバランスの良い食事の啓蒙を実施するモデル実証企業として、農林水産省補助事業「平成18年度にっぽん食育事業」に協力しました。

店頭を通して、お客様に「食事バランスガイド」の理解・活用を促し、「情報」と「体験」を通して食への悩みを解決していただく助けとなる取り組みを進めています。



レジ前ポスター



惣菜コーナーパネル



骨量測定



豆つまみゲーム



ビタミンチェック



栄養士による食生活相談

5ADAY食育体験ツアー

「1日5皿分(350g)以上の野菜と200g以上の果物を食べましょう」をスローガンとしたファイブ・ア・デイ活動を推進しています。社会貢献活動の一環として、地域の小学生を対象とした野菜・果物摂取促進につながる食育学習に取り組んでいます。

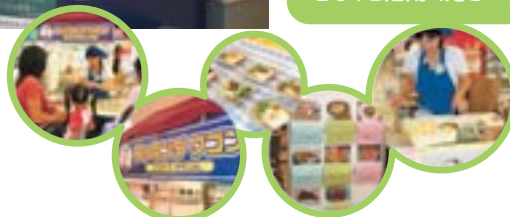


クッキングワゴン

栄養士が健康を考え、旬の食材を使って提案する店頭での調理実演コーナーを開催しています。



アピタ・ユニーでは、食に関するさまざまな情報を発信しています。店頭やWebなどでレシピも沢山用意しています。ぜひ、ご活用ください!!



地元企業との共同食育イベント

料理教室や、店内のイベントを通じて、皆様に「食」についての関心を持っていただくために、ユニーは地元企業と共同で、食に関するさまざまなイベントを開催しています。



収穫体験

お客様と一緒に産地で収穫を体験するツアーを実施しています。農産物の栽培から収穫までを生産者とふれあいながら体験することにより、売場の野菜・果物を身近に感じていただくことが食育につながるとユニーは考えています。



地元学生との共同食育まんが



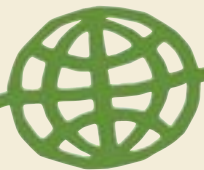
食物栄養学科の学生と取り組んでお子様にわかりやすい食育まんがを作りました。さまざまな年代の方に食育について興味をもっていただくことが目的です。



ホームページ

私たちにとって、一番身近な「食」に関することを紹介するサイトです。旬の食べ物を食卓に取り入れる方法や、栄養士が考える健康&簡単「からだにイイことレシピ」など、日々の「食生活」を応援しています。国が推し進めている「食事バランスガイド」の啓蒙を推進しています。





みんなで止めよう温暖化

チーム・マイナス6%



自然との調和を大切に

「未来の子供達に美しい自然を残したい」
ユニーは環境に優しい生活をお客様と
一緒に進めています。



ユニー株式会社 環境部

愛知県稲沢市天池五反田町1番地

TEL.0587-24-8093 FAX.0587-24-8034

<http://www.uny.co.jp>



このレポートは、FSC認証紙と環境に
配慮した植物性大豆油インキを使用し、
水なし印刷方式で印刷しています。

2007年8月発行